つながりで、救う。

特定非営利活動法人

愛知ネット 活動記録 2022

Aichi Net

つながりで、救う。

愛知ネットは、災害救援被災地で学んだ防災・災害時対応と、「つながり」の重要性を、
平時からの教育やコミュニケーションという形で、
いざというときに地域と命を守るコミュニティのチカラに変える
コミュニティ・コーディネート・ワーカーです。
「防災・災害救援」、「社会教育」、「まちづくり」、「市民活動支援」の4つからなる活動は、
被災地で愛知ネットが活動した時の「教訓」が生きています。

■防災・災害救援
Active in disaster & Preparedness

災害時には被災地内外で、被災者のニーズと全国のシーズをマッチングするコーディネート事業を行っています。平時には、被災地で得た学びを活かすべく、各種の啓発・訓練を統合した講演・講座や実証訓練を実施しています。

大船渡市市制 70 周年記念式典
会場：岩手県大船渡市

■社会教育
Social education

「愛知県美浜自然の家」「愛知県旭高原自然の家」「愛知県野外教育センター」「豊橋市青少年センター」の管理・運営業務を受託し、社会教育活動を通して、若者に防災・災害救援の啓発活動を実施しています。また、当該施設を社会教育拠点と位置づけ、地域と連携しながら、青少年の学習の場や仲間づくりなど、自らの実生活に即した教養を高める場の提供をします。

凧であそぼう
会場：豊橋市青少年センター

■まちづくり
Town planning

災害時に役立つ、地域のネットワークの力を充実・活性化させるため、講座の企画運営や各種会議への参画を行っています。

おやじの学び舎２０２２
会場：大府市役所地下多目的ホール

■市民活動支援
NPO support

災害時においても活動する市民団体との顔の見える関係づくりを目指して、「刈谷市民ボランティア活動センター」「大府市民活動センター」「碧南市市民活動センター」「安城市民交流センター」を運営しています。
施設の管理とあわせて、ボランティアおよび市民活動の促進のために、愛知ネットの特性やノウハウを活かした事業をさらに展開していきます。

わくわくフェスティバル
会場：安城市民交流センター

■児童発達支援事業
Support for children with disabilities

就学前 6 歳までの障がいのある子どもや、発達に遅れのある子どもを愛知ネットが開設する事業所で受入れ、日常生活の自主訓練や機能訓練を実施し、安心して小学校生活が送れるよう支援していきます。

年長児卒あどびぃ式
会場：児童発達支援事業所「あどびぃ」

■防災・災害救援

Active in disaster & Preparedness

●防災活動

Ⅰ. 実施概要

愛知県内外の市町村並びに、各団体・組織が主催する訓練・会議・委員会などに参画する。そして情報交換、意見交換を行いながら、地域防災力の向上に寄与する。

Ⅱ. 目標・計画と実績

防災訓練・会議・委員会に参画し、他団体や地域とのネットワークを広げ、災害時の支援体制を強化することを目標とする。

・従業員の人数　　２名(天野、内藤)
・受益対象者の範囲および人数　　三河地域を中心に約 2,000 人

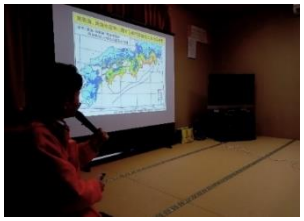
Ⅲ. 実施した事業内容

１．豊田市における活動

（１）豊田市マイタイムライン作成支援事業（４月１回、５月１回、６月２回、９月５回、10 月３回、11 月５回、12 月２回、２月１回、３月１回　計 21 回実施）
（２）本地新田自治区防災講演会（４月）
（３）下市場自治区防災研修（５月）
（４）とよた防災啓発推進協議会（６月、８月、10 月、12 月、１月、２月）
（５）とよた消防フェスタ実行委員会（7 月）
（６）47 災害から 50 年おばら防災キャンプ（8 月）
（７）47 災害から 50 年ふじおか防災キャンプ（10 月）
（８）とよた防災フェスタ（２月）
（９）防災士養成講座（２月）
（10）小原地区防災研修（３月）

２．知立市における活動

（１）知立市自主防災会幹事会（５月）
（２）知立市自主防災会総会（５月）
（３）知立南中学校防災教育（６月、７月１回、９月２回）
（４）知立市防災連絡協議会臨時総会（８月）
（５）パティオ池鯉鮒防災イベント（ブース出展）（９月）
（６）知立市総合防災訓練（９月）
（７）知立市防災リーダー研修（10 月）
（８）知立中学校防災教育（10 月、11 月、12 月）
（９）牛田町防災訓練（11 月）
（10）西町防災訓練（12 月）
（11）知立市自主防災会連絡協議会報告会（３月）



３．安城市における活動

（１）安城市減災まちづくり研究会運営委員会（６月、７月、10 月、12 月）

（２）安城市防災リーダー養成講座（８月）

４．みよし市における活動

（１）みよし市防災リーダー研修（基礎編）（１月）

（２）みよし市防災リーダー研修（養成編）（２月）

（３）みよし市災害ボランティアセンター立ち上げ訓練（２月）

５．稲沢市における活動

（１）稲沢市総合防災訓練（８月）

（２）いなわざ防災リーダー研修（11 月）

（３）災害対策本部立ち上げ研修（２月）

６．瀬戸市における活動

（１）瀬戸市防災講演会（７月）

７．豊川市における活動

（１）牛久保連区会 HUG 研修（10 月）

８．愛知県域における活動

（１）防災のための愛知県ボランティア連絡会（７月、９月、３月）

（２）広域ボランティア支援本部設置訓練（９月）

（３）愛知県防災ボランティア情報共有会議（９月）

（４）あいち防災協働推進協議会（10 月）

（５）あいち防災フェスタ 2022（11 月）

（６）愛知県情報共有会議（３月）

９．１億総レスキュー会議（月１回）

・愛知ネットスタッフにより構成される内部会議体で、各センターにおける防災事業の情報共有、相談、研修などを実施している。

・事務局の防災事業についても、ファシリテーター（補助）として参加をする。

●災害救援

特記事項なし

■ 社 会 教 育
Social education

● 愛知県美浜自然の家

センター概 要

場　　所 ： 愛知県知多郡美浜町大字小野浦字宮後１番地の１
電　　話 ： 0569-88-5577
ファクス ： 0569-88-5385
E－mail ： info@sizennoie-mihama.jp
U R L ： http://sizennoie-mihama.jp/
開館時間 ：
　８時 30 分～17 時 30 分(宿泊客無し)
　８時 30 分～22 時　　(宿泊客有り)
休 館 日 ： 年末・年始６日間及び９月下旬から３月中旬まで原則月曜日
敷地面積 ： 208,837.42 ㎡　　建物延面積 ： 10,695.21 ㎡　　宿泊定員 ： 500 人
構造・規模 ： 本 館 棟　SRC 造６階建　8,450.33 ㎡　体 育 館　RC 造１階建　1,284.64 ㎡
　ｷｬﾝﾌﾟ管理棟　RC 造１階建　63.42 ㎡　ﾃﾆｽｸﾗﾌﾞﾊｳｽ　RC 造１階建　63.54 ㎡
　付 属 棟　プロパン庫、汚水処理施設、野外便所２棟、渡り廊下、野外施設
主な施設 ：
　屋外施設…つどいの広場、ロマンの広場、ふれあい広場、チャレンジ広場、臨海広場、屋根付野外炊飯場２箇所、営火場２箇所、テニスコート４面、ハイキングコース、展望台、野外ステージ、あずまや２カ所、駐車場３カ所など
　本　　館…宿泊室 48 室(1 室 10 人)、本部室３室、リーダー室９室、研修室 10 室(1 室 50 人)、講堂(500 人)、食堂(250 人)、大浴場(70 人)、中浴場(50 人)、コミュニティーホール、事務室
　体 育 館…バスケットボール(2 面)、更衣室（2 室）
主な設備 ：
　身障者専用駐車場、車椅子用出入口（自動ドア)、車椅子用スロープ（各所)、点字付公衆電話、エレベータ（音声案内・点字銘板)、車椅子専用トイレ（2 階、3 階)、AED（自動体外式除細動器)、車椅子

Ⅰ　センターの役割と任務

１．委託業務名・目的

（１）業　務　名：愛知県美浜自然の家指定管理業務

（２）事業の目的：愛知県美浜自然の家は、豊かな自然の中で、規則正しい集団生活をしながら、各種の講義・スポーツ活動・レクレーション・創作活動・野外活動などの研修を通して、健全な少年やよりよい社会人を育成することを目的としてつくられた社会教育施設である。

　愛知ネットは、この設置目的に沿い、愛知県美浜自然の家の管理運営を行い、青少年が『創造力』『生きる力』『和（役立ち合い)の精神』を培い成長することを支援すると同時に、青少年と大人が共に育ち合う社会づくりに貢献する。

（３）実 施 期 間：令和３年４月１日～令和６年３月 31 日の３年間

Ⅱ　今年度の目標

1　愛知ネットが、愛知県美浜自然の家が公の施設であることを認識し、公平公正な運営をする。

2　社会教育の場として愛知県美浜自然の家を提供し、「青少年の『創造力』『生きる力』『和（役立合い）の精神』の教養・向上に寄与し、より良い社会人への成長を促す」社会教育施設を目指す。

3　職員一人ひとりが、愛知県美浜自然の家の業務遂行能力を身に付ける。
職員一人ひとりのよさを生かし、適材適所に配置し、その人を伸ばし、組織力を高める。

4　職員が青少年をはじめ利用者の成長に喜びを感じ、分かち合い、「チームみはま」で美浜自然の家を愛される施設にする。

5　「美浜で体験できてよかった、美浜で体験していただいてよかった」をテーマに、このテーマにせまるための良好な関係を築くために全職員が一丸となって職務を遂行する。また子どもたちや利用者が満足感をもつような自主事業を開催する。

6　指定管理期間３年間の宿泊利用者目標数 150,000 人として利用者の復活をするために、新規利用者の拡大を図る。令和４年度はコロナの影響も考慮し、宿泊者数 50,000 人を目標にする。

Ⅲ　数値目標と実績

1．宿泊者数　年度別比較

	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度		
	実績	実績	実績	目標	実績	達成率
宿泊者数	44,275 人	10,586 人	22,442 人	50,000 人	34,001 人	68.0%

2．宿泊者数　四半期実績

	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	計
R4 年度	12,214 人	11,465 人	6,192 人	4,130 人	34,001 人
R3 年度	2,785 人	7,386 人	9,673 人	2,598 人	22,442 人
R2 年度	103 人	2,921 人	4,744 人	2,818 人	10,586 人
R1 年度	19,881 人	16,088 人	5,390 人	2,916 人	44,275 人

Ⅳ　実施した事業内容

１．主催事業

（１）家族で地引網体験（５月２日間、６月２日間）

（２）ＥＣＯを考える小野浦海岸エコレンジャー（７月２日間）
クルーザーによる海面調査、海岸ごみ収集など

（３）親子で防災教室（８月）
非常食づくり、火起こし体験、ロープワークなど

（４）親子投げ釣り教室（９月２日間）

（５）さつまいも収穫祭（９月２日間）
さつまいも堀り体験、野外炊飯体験、みかん狩り体験など

（６）みんなで走るって楽しいよ（９月、12 月）

（７）親子ドローン教室（11 月２日間）

（８）親子で海苔すき体験（１月２日間）

のりすき体験、星空観察及び講義、恵方巻き作り体験など

２．自主事業

（１）教員採用試験対策講座（６月、３月２日間）

小論文指導、模擬面接

Ⅴ その他の取り組み

１．利用促進について

（１）ＨＰは予約の空き状況等情報提供をこまめに行う。

（２）主催事業参加者募集媒体に愛知県公式 LINE の活用

（３）教育委員会を通じた知多管内の学校への PR 活動

２．施設環境の修繕・環境整備について

（１）危険個所や環境整備の場所の早期発見のために、月１回の点検を昨年度から実施している。

（２）職員による環境整備

体育館・講堂のワックスがけ／施設内ガラス等の清掃／外施設の植栽作業（ハイキングコースなど）

３．外部評価について

（１）利用者アンケート

昨年度から団体代表者による評価の他に、学校については児童・生徒にもアンケート回答協力をしていただいている。子ども目線での評価を今までの指導者評価と併せて今後の改善等に取り入れていく。

（２）運営委員会（２月）

施設運営について情報共有や意見交換を行った。

４．地域・企業・関係団体との連携について

（１）美浜町との連携

企画課や産業課と連携（各種まちづくり会議へ参画し宿泊や研修場所の候補）

都市農村交流会議に参加

（２）小野浦地区自主防災会との連携は継続している。

（３）愛知県キャンプ協会と連携し、それぞれの事業への講師派遣交流をした。

（４）南知多ビーチランドとの連携では、主催事業でバックヤードツアー等を企画した。

５.人員体制・職員研修について

（１）職員体制

令和４年度末で２人が退職し 11 名体制になり、宿直者をはじめ人員が不足している。

（２）他の県立社会教育施設との連携

旭、美浜、野外での連携を深め、合同申込書の作成や、新規利用者の開拓の方法等について協

議をしている。（昨年度第２四半期から継続）

（３）職員研修

「砂時計」や「ＨＵＧ」などの指導を職員で対応できるように職員研修会を実施している。

Ⅵ まとめ

（１）宿泊者数について

コロナの影響は本年度もあったが、「体験」の重要性を考える学校が増え時期をずらしての宿泊研修をされる学校もあり、34,001 人の宿泊利用があった。

（２）主催事業について

主催事業については予定した事業の１つを除いて実施することができた。本施設特有の地引網等の海での活動事業は定員をはるかに超える応募があった。また、本年度新しい事業としてドローン体験事業にも多く応募いただき実施できた。

（３）食事の提供方法について

昨年度の利用者アンケートで要望のあったバイキング方式の提供を４月から開始したが、好評であった。

（４）Wi-Fi の導入

企業研修や高校の勉強合宿を拡大するために、研修室１室に Wi-Fi を導入した。

（５）長寿命化のための大規模改修について

美浜自然の家は令和６年度から長寿命化改修工事が開始される。愛知ネットだけでなく関係者（株式会社みはまや株式会社安城電機）を交えた検討が必要であるので愛知県生涯学習課（令和５年度から「あいちの学び推進課」に課名変更）に働きかけたい。

（６）利用料金の値上げについて

電気代・クリーニング代等の値上げのため現利用料金では運営が難しい状況にあり、協議の結果、令和５年度から利用料金が改訂されることとなった。

● 愛知県旭高原自然の家

センター概 要

場　　所 ： 愛知県豊田市小滝野町坂 38 番地 25
電　　話 ： 0565-68-3200
ファクス ： 0565-68-3203
E－mail ： info@sizennoie-asahi.jp
U R L ： http://sizennoie-asahi.jp/
開館時間 ：
　8 時 30 分～17 時 30 分(宿泊客無し)
　8 時 30 分～22 時　　(宿泊客有り)
休 館 日 ： 年末・年始 6 日間及び 9 月下旬から 3 月中旬まで原則月曜日
敷地面積 ： 58,543 ㎡　　建物延面積 ： 11,490 ㎡　　宿泊定員 ： 500 人
構造・規模 ： 本 館 棟　RC 造 3 階建　5,033 ㎡
　体 育 館　RC 造 1 階建一部 2 階建 1,298 ㎡
　宿 泊 棟　北宿泊棟 RC 造 3 階建　2,290 ㎡（60 室 300 人）
　南宿泊棟 RC 造 2 階建　1,513 ㎡（40 室 200 人）
　創 作 棟　工作室、準備室　265 ㎡
主な施設 ：
屋外施設…つどいの広場、ふれあい広場、いこいの広場、コンサート広場、カリオンの塔、ファイヤー場 3 箇所（うち 1 箇所屋根付)、野外炊飯場 5 箇所（うち 1 箇所屋根付)、駐車場（乗用車 70 台、バス 10 台）
本　　館…宿泊室 100 室(6 人×60 室、4 人×30 室)、リーダー室 10 室、研修室 10 室(45 人×4 室、54 人×6 室)、講堂(常設 279 席)、食堂(240 人)、大浴場(70 人)、中浴場(50 人)、事務室、エントランスホール、メディテーションルーム
体 育 館…バスケットボール(2 面)
主な設備 ：
身障者専用駐車場、車椅子用出入口（自動ドア)、車椅子用スロープ（各所)、エレベーター、車椅子専用トイレ（本館、北宿泊棟、南宿泊棟)、AED（自動体外式除細動器)、車椅子

Ⅰ　センターの役割と任務

１．委託業務名・目的

（１）業　務　名：愛知県旭高原自然の家指定管理業務

（２）事業の目的：愛知県旭高原自然の家は、豊かな自然の中で、規則正しい集団生活をしながら、各種の講義・スポーツ活動・レクレーション・創作活動・野外活動などの研修を通して、健全な少年やよりよい社会人を育成することを目的としてつくられた社会教育施設である。

　愛知ネットは、この設置目的に沿い、愛知県旭高原自然の家の管理運営を行い、利用者が自己やグループの課題にひたむきに取り組む体験を通じて、自己と他者の存在と成長をお互いに喜び合い、地域と社会への貢献意欲につなげていくことで、生きる力と未来への希望を育むことに貢献する。

（３）実 施 期 間：令３年４月１日～令和６年３月 31 日の３年間

Ⅱ　今年度の目標

1　スムーズな運営ができる体制づくりを行う。
2　愛知ネットが、愛知県旭高原自然の家が公の施設であることを認識し、公平公正な運営をする。
3　利用者を主人公にした関係づくりの中で地域資源等のコーディネートを通じ成長を支援する。
4　愛知ネットの資源やノウハウを活かした学習プログラムの提供と運営をすすめる。
5　宿泊利用者目標数 42,500 人の達成に向けて広報活動を充実させる。
（宿泊利用者数 42,500 人の目標は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しない場合）

Ⅲ　数値目標と実績

1．宿泊者数　年度別比較

	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度		
	実績	実績	実績	目標	実績	達成率
宿泊者数	38,395 人	7,148 人	14,285 人	42,500 人	21,206 人	49.9%

2．宿泊者数　四半期実績

	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	計
R4 年度	10,940 人	6,432 人	3,834 人	2,188 人	21,206 人
R3 年度	2,606 人	4,461 人	6,226 人	992 人	14,285 人
R2 年度	155 人	1,778 人	4,876 人	339 人	7,148 人
R1 年度	20,877 人	13,410 人	2,813 人	1,295 人	38,395 人

Ⅳ　実施した事業内容

1．主催事業

（1）親子防災キャンプ（9 月 2 日間【中止】、11 月 2 日間）
（2）ジビエ料理と秋の星空観察　（10 月 2 日間）
（3）ダッチオーブンと冬の星空観察（12 月 2 日間）
（4）元気村でそり滑り＆恵方巻づくり（1 月【中止】）
（5）元気村でそり滑り＆親子でクラフト作りに挑戦（2 月 2 日間）

Ⅴ　その他の取り組み

1．利用促進について

（1）学校等への PR 活動
愛知県教育委員会高等教育課、保健体育課、私立中学校高等学校／豊田市スポーツ団体
県外学校への PR 活動：岐阜県東濃 5 市の教育委員会を訪問
浜松市小中学校に約 150 校に施設案内を送付
（2）主催事業の案内・後援申請
愛知県教育委員会、豊田市、中日新聞社へ後援申請を行った。

（３）SNS を活用したＰＲ活動

① 愛知県公式 LINE で主催事業の PR

② 施設 Instagram 開設

③ youtube チャンネル動画作成

２．施設の修繕・環境整備について

（１）停電（７月）による設備機械の故障、修繕

埋設ケーブル取替／第 1 柱受電設備開閉器取替／エレベーター1 基制御盤取替／非常用照明鉛蓄電池取替／事務室 Wi-Fi ルーター交換/ファックス通信異常解/消貯湯槽緊急遮断弁故障／防災副盤バッテリー交換

（２）職員による環境整備

宿泊室ベッド補修（底の割れ、ぐらつき）／大中浴場壁補修（床修繕、カビ取り、ペンキ塗り）／宿泊室全室、研修室エアコンフィルター清掃

３．外部評価について

（１）利用者アンケート

総合的な満足度は、91.53 点（100 点満点）で、スタッフの対応については 95.05 点の評価をいただいた。より満点に近づけるよう、スタッフの業務理解や質の良いサービスの提供に努める。

（２）運営委員会（３月）

停電時の対応についてのご意見や「教員向け野外活動研修会」の実施要望があった。

４．地域・企業・関係団体との連携について

（１）旭支所・食堂業者・自然の家連絡調整会（７月、２月）

（２）WRC 関連会議（８月～11 月、月１回）

自然の家は関係者宿泊所、関係者打ち合わせ場所として協力をした。

（３）豊田市次世代育成課情報交換会（９月）

社会教育施設の運営、利用者の動向情報共有

（４）国立乗鞍青少年交流の家来所（９月、11 月）

「体験の風をおこそう」運動の普及、国立（岐阜）県立（愛知）での連携協力方法の模索

５．人員体制・職員研修について

人員は事務局員を含め 12 人であるが、経験年数の少ない職員が多いので、スキルアップ研修をすすめる。(館内案内研修、創作活動研修、退所点検研修、危機管理研修)

Ⅵ まとめ

（１）STEAM 教育の場としての利用の呼びかけ

・教員、児童生徒を対象にした活動の場として活用できるよう産官学連携をはかる。私立中学校高等学校や大学からは好感触を得ている。次年度にはプログラミングやドローンの主催事業を計画している。

（２）利用者数の回復傾向

・新型コロナウイルス感染症の影響で、年度初めの利用団体はキャンセルが相次いだが、秋以降の予約数や利用者数はコロナ前の水準に戻ってきている。

・先行利用の段階で、次年度は 30,000 人以上の予約が入っており、野外学習が実施できなかった分、体験活動の重要性を感じられる学校が増えているように感じる。利用者の思いに応えらえれるように、ていねいで親切な対応に努める。

（３）停電と施設の老朽化

・７月に約１か月間停電により利用をお断りせざるを得なかった。停電は落雷によるものであったが、長期間の停電の影響で設備機械の故障が多発した。所管課の尽力もあり、故障機器の交換ができたが、施設の立地上落雷は避けて通れない。危機管理体制の見直しやスタッフの危機管理研修を行い、非常事態に備える。

・旭高原の長寿命化改修工事は美浜が終わってからの予定である。施設の老朽化が進行しているので、工事が始まるまでの期間を安心安全に運営できるよう日々の点検を行い、優先順位をつけて修繕等の老朽化対策をする。

（４）長寿命化改修工事による利用者の影響

美浜の長寿命化改修工事は令和 6 年から開始されるが、その期間中の活動場所として旭高原を検討される団体が出てきている。美浜が使えない期間の活動場所の受け皿として可能な限り受入を行いたい。

● 愛知県野外教育センター

センター概 要

場　　所 ： 愛知県岡崎市千万町町字大平田 17 番地 5
電　　話 ： 0564-83-2221
ファクス ： 0564-83-2222
E－mail ： info@yagaikyouiku-center.jp
URL ： http://yagaikyouiku-center.jp/
開館時間 ：
　8 時 30 分～17 時 30 分(宿泊客無し)
　8 時 30 分～22 時　　(宿泊客有り)
休 館 日 ： 年末・年始 6 日間及び 9 月下旬から 3 月中旬まで原則月曜日
敷地面積 ： 215,043.10 ㎡　　建物延面積 ： 4954.48 ㎡　　宿泊定員 ： 252 人
構造・規模 ： 管　理　棟　SRC 造 3 階建　2,033.44 ㎡　体　育　館　RC 造 1 階建　948.50 ㎡
　宿　泊　棟　SRC 造 2 階建　1,630.54 ㎡　ファイヤー場　鉄骨造 1 階建 63.54 ㎡
　野外管理棟鉄骨造 2 階建　50 ㎡　熱風乾燥室 RC 造 1 階建　70 ㎡
　プロパン庫、ブロアー庫、汚水処理施設、野外便所棟 3 か所
　水場 4 棟　炊飯場 8 棟　炊飯炉 48 炉　48 テーブル
主な施設 ：
屋外施設…運動広場（3 か所）第 1・第 2・第 3、ファイヤー場（第 1：屋根付き・第 2・第 3）
　野外炊飯場 8 箇所、ハイキングコース 2 コース（巴山・千万町）、ウオークラリー4 コース、
　駐車場（乗用車 50 台）
本　　館…宿泊室 42 室(1 室 6 人)、ミーティングルーム 4 室、多目的室 2 室、研修室 4 室(第 1・第 3 定員 72 人,第 2 定員 42 人,第 4 定員 80 人)、食堂(288 人 48 卓)、浴室男女(30 人)、事務室
体 育 館…バスケットボール(１面)、バレーボール（2 面）バドミントン（6 面）更衣室（2 室）
主な設備 ： AED（自動体外式除細動器)、車椅子

Ⅰ　センターの役割と任務

１．委託業務名・目的

（１）業　務　名：愛知県野外教育センター指定管理業務

（２）事業の目的：愛知県野外教育センターは、豊かな自然環境の中で、青少年等の集団宿泊生活を通じた健全な育成、文化的教養の向上及び協同・友愛・奉仕の精神の滋養を目的とした施設である。

　愛知ネットは、この設置目的に沿い、愛知県野外教育センターの管理運営を行い、利用者が豊かな自然・社会環境の中で自己やグループの課題にひたむきに取り組む体験を通じて、自己と他者の存在と成長をお互いに喜び合い、地域と社会への貢献意欲につなげていくことで、生きる力と未来への希望をはぐくむことに貢献する。

（３）実 施 期 間：令和３年４月１日～令和６年３月 31 日の３年間

Ⅱ　今年度の目標

1　利用者の研修目的や学習目標を理解し、その達成を支援できる適切な活動メニューを提供できるように、プログラム開発や地域人材も含めた人材育成及び開発に力を入れる。

2　環境教育の一貫として、山間地域という特色を活かしたアクティブラーニング型の体験・学習プログラムを多数用意する。

3　約 50 年稼働して至るところが老朽化している。長期的な視野に立った予防保全の観点から株式会社安城電機と十分協議して日常点検や定期点検を実施し、施設の安全に保つことで施設運営を図る。

4　感染症防止対策ガイドラインを作成し、ガイドラインに基づき対策を行う。

5　2022 年度の宿泊利用者目標を 18,000 人とし、2023 年度までに 19,000 人を目指す。

Ⅲ　数値目標と実績

1．宿泊者数　年度別比較

	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度		
	実績	実績	実績	目標	実績	達成率
宿泊者数	16,533 人	3,775 人	7,187 人	18,000 人	13,421 人	74.6%

2．宿泊者数　四半期実績

	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	計
R4 年度	4,896 人	5,622 人	2,267 人	636 人	13,421 人
R3 年度	1,252 人	2,422 人	2,837 人	676 人	7,187 人
R2 年度	0 人	1,471 人	2,171 人	88 人	3,775 人
R1 年度	9,324 人	5,313 人	1,811 人	85 人	16,533 人

Ⅳ　実施した事業内容

1．主催事業

（1）サバイバル防災キャンプ（5 月）

（2）森を学ぼう　森であそぼう（6 月 2 日間）
　　間伐体験、スウェーデントーチ、葉っぱプリント

（3）森の映画会＆トークライブ（9 月 2 日間）

（4）めざせ！！火起こしマスター（10 月 2 日間）

（5）こんにゃくづくりとお餅つき（11 月 2 日間）

（6）家族 de やまがく
　　野外炊飯、キャンプファイヤー、オリエンテーリング、五平餅作り

（7）野外冬季キャンプ場（2 月 4 回、3 月 3 回）

Ⅴ　その他の取り組み

１.利用促進について

（１）愛知県公式ＬＩＮＥやインスタグラムで広報活動、ちらしデザインの向上

イベントの案内を愛知県公式ＬＩＮＥに掲載したことにより、多くの応募が集まった。参加者からはちらしデザインが好評である。

２．施設の修繕・環境整備について

（１）職員で実施した修繕・環境整備

宿泊室畳表替え/倒木の撤去/案内看板の更新/ハイキングコースの整備/管理棟・宿泊棟大掃除（換気扇、パネルヒーター、ベッド下、窓枠サッシ等）/網戸取替え/管理棟・宿泊棟ワックス掛け/野外バーベキュースタンド修理/野外炊飯場整備/ハイキングコース整備/運動広場等の看板作成/体育館前県道雑木伐採/食堂パーテーション・パイプ椅子修理

３．外部評価について

・利用団体からのアンケート結果には「即時業務改善」に努めている。６点満点で、平均は 5.5 点であった。利用者とかかわる野外炊飯、五平餅、マスつかみ、クラフトづくりなどスタッフの丁寧な対応が評価されている。

・運営委員会では、地元とのつながりを意識した主催事業の継続、林業とのコラボレーション、企業への PR 促進、ホームページを充実、バリアフリーの要望等が意見として挙がった。

４．地域・企業・関係団体との連携について

（１）関係団体との連携

岡崎市の中山間政策課や岡崎市観光協会、岡崎市サイクリング協会、岡崎市地域おこし協力隊、岡崎額田ブランド協議会、千万町・木下ふるさとづくり委員会、岡崎女子大学、岡崎女子短期大学、愛知県キャンプ協会、愛知県キャンプカウンセラー協会（ACCA)、愛知県オリエンテーリング協会、愛知県シェアリングネイチャー協会などの外部団体との協働の事業等を実施できるよう打ち合わせを行った。

（２）企業との連携

岡崎市と三菱自動車が「カーボンニュートラル社会の実現に向けた連携協定」に基づき、３月に「森林保全活動連携協定」を結んだ。「美しい地球を次の世代へ」をテーマにカーボンニュートラルの実現に向けた家族イベントを本施設で実施できるか企画中である。

５．人員体制・職員研修について

（１）職員体制

令和５年度よりセンター長と副センター長が新任で着任し 12 名体制になる。

（２）職員研修

活動プログラム指導のための職員研修をすすめる。

例）五平もち、マスつかみ、クラフト（小刀)、野外炊飯、HUG、ブルーシートテント

Ⅵ まとめ

（１）キャンプファイヤー事故

４月に豊橋市内中学校のキャンプファイヤー中にコンクリート製焚き火台敷板が爆裂し、焚き火台が転倒、火の粉が飛散するという事故が発生した。幸い救急・消防への通報を要するほどの被害はなかったが、施設側も県も重大なインシデントととらえ、早急に再発防止を図る措置をとった。プログラム前のオリエンテーションで、野外活動には多くの危険性があることを十分承知して、プログラムを実行していただくよう促した。また、職員研修を充実し、使用器具等の事前にチェックを力を入れるようにしている。

（２）職員による施設・設備の修繕、環境整備について

50 年を超える施設で、老朽化に耐え、施設・設備の修繕を加えながら運営している。閑散期は、来春に向けた施設・設備の修繕、環境整備の時期としている。職員でできる作業については積極的に行い、利用者に不便をかけないように、気持ちよく利用していただけるよう努めている。

（３）職員のスキルアップ

年度末で退職される職員に代わって、新任の職員が配置される。利用者対応や活動プログラムの指導助言ができるようにスキルアップを図っていきたい。

（４）教員の働き方改革や新型コロナウイルス感染症の影響で、以前は２泊３日で利用のあった団体が１泊２日に日程を縮小することが増え、活動内容がパターン化し野外活動が形骸化しているように感じる。延べ宿泊者数も二分の一になっており、全体としてみても宿泊者数は年々減少している。

利用者を増やすためには多様な利用ができるようにしていく必要があると考えている。野外キャンプや地域の方のお力を借りながら新たなプログラムを開発・実施するなど、さまざまな利用方法を試験的に実施し、施設の教育価値や存在意義を創出したい。

● 豊橋市青少年センター

センター概 要

場　　所：豊橋市牟呂町字東里 26 番地
電　　話：(0532)　46 － 8925
Ｅ－mail：info@toyohashi-yc.jp
Ｕ Ｒ Ｌ：http://toyohashi-yc.jp/
開館時間：豊橋市青少年センター　午前 9 時～午後 10 時
　　＊宿泊棟　入所　午後 1 時～午後 5 時　　退所　午前 9 時 30 分
休 館 日：毎週月曜日（月曜日が国民の祝日または休日のときはその次の平日）
年末年始：12 月 29 日～1 月 3 日
構造・規模　〈建物延べ面積〉
　中 央 棟　：ＲＣ造 3 階建　2,036 ㎡　　研 修 棟　：ＲＣ造 4 階建　870 ㎡
　宿 泊 棟　：ＲＣ造 4 階建　963 ㎡　　屋外施設　：運動広場　3,600 ㎡

主な施設
○中 央 棟　・音楽室・図書談話室・喫茶室・多目的室・遊戯室・体育室・大研修室（100 人）
　　＊豊橋西部地域総合型クラブ KOZOTTE 事務局
○研 修 棟　・第 1 研修室（48 人）・第 2 研修室（12 人）・第 3 研修室（36 人）・第 4 研修室（12 人）・
　　・第 5 研修室（48 人）・工作室
　　＊豊橋市子ども会連絡協議会事務局、少年団体リーダーズクラブ事務局、ほっとプラザ西（適応指導教室）、とよはし若者サポートステーション、豊橋市少年愛護センター
○宿 泊 棟　・宿泊室 12 室（最大 48 人）・食堂 1・厨房 1・浴室 2・談話室 3・管理人室 1
　　＊病児保育室つくし１、つくし２
○屋外施設　・運動広場（ソフトボール１面ナイター照明有り）

Ⅰ　センターの役割と任務

１．委託業務名・目的

（１）業　務　名：豊橋市青少年センター指定管理業務

（２）事業の目的：豊橋市が掲げる「青少年センター運営方針」に基づき、豊橋市青少年センターを社会教育活動拠点と位置づけ、青少年が学習や話し合いを進め、仲間づくりや各種の催しに参加し趣味を育て教養を高めるとともに、青少年団体に自主的な活動の場を提供する。

　市内の子ども会、ボーイスカウト、青年団などの利用を優先的に認め、青少年団体の使用に支障のない範囲で一般団体の使用を認める。

　また、豊橋市青少年センターの併設施設である、「豊橋市子ども会連絡協議会」「豊橋市青年団協議会」「少年団体リーダーズクラブ」「とよはし若者サポートステーション」「ほっとプラザ西」など青少年の健全育成を目的として活動する団体と良好な関係を築いていく。

（３）実 施 期 間：令和３年４月１日～令和６年３月 31 日の３年間

Ⅱ　今年度の目標

指定管理３期目の２年目である。過去 10 年間の実績を基盤に、青少年の健全育成を積極的に進めると共に更なる利用拡大を図る。青少年団体の活動を広く市民に紹介したり、団体同士の情報交換を促したりする。また、豊橋市シルバー人材センターと協働して管理運営を進めることにより、新たな視点での取組みや新たな利用者の掘り起こしを目指す。年間利用者目標数を 48,000 名とする。

＜具体的方策＞

１．**魅力的な自主事業の実施**…利用者ニーズに即した事業を企画し、情報発信や応募方法を工夫する。

２．**新たな利用者の開拓**…近隣大学へ積極的に働きかけたり、シルバー人材を有効に活用したりする。

３．**青少年健全育成の推進**…青少年団体の活動の活性化のために情報発信や情報交換の場を設定する。

Ⅲ　数値目標と実績

	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度		
	実績	実績	実績	目標	実績	達成率
施設利用者数	44,76 人	27,25 人	38,531 人	48,000 人	45,696 人	95.2%
（うち、宿泊者数）	(287 人)	(58 人)	(47 人)	目標値定めず	(193 人)	目標値ないため達成率算出せず
他施設使用者数	3,974 人	3,250 人	3,417 人		2,748 人	
（サポートステーション）	(2,548 人)	(1,869 人)	(2,113 人)		(1980 人)	
（ほっとプラザ西）	(1,426 人)	(1,381 人)	(1,304 人)		(663 人)	
（病児保育つくし）					(105 人)	

Ⅳ　実施した事業内容

１．どきどき挑戦講座

文化的な活動の体験講座を行うことにより趣味を広げるきっかけとする。

（１）やさしいヨガ（６月～７月、11 月～12 月・全 12 回）

（２）はじめてのオカリナ（９月～10 月・全６回）

（３）はじめての俳句（９月～10 月・全４回）

（４）ママのための写真術（９月～10 月・全６回）

（５）コサージュづくり（２月・１回）

２．四季の行事教室

小学生と保護者向けのレクリーション講座で、年４回開催している。また、レクリエーション・インストラクター養成講座の受講生等を研修生として受け入れている。

（１）七夕のつどい（７月）　（２）お月見のつどい（10 月）

（３）クリスマスのつどい（12 月）　（４）ひなまつりのつどい（２月）

３．青年講座

主に青年向けスポーツ講座で、定期的な運動の場の提供とスポーツの啓発、また同世代の青年との交流を通じて青少年の健全育成に寄与することを目的に実施している。

（１）ラージボール卓球（５月～６月、１月～２月・全 12 回）

（２）初級ジャズダンス（６月～７月、９月～10 月・全 12 回）

（３）バドミントン（６月～７月、１月～２月・全 12 回）
（４）フラダンス（６月～７月・全 12 回）
（５）ヒップホップ（１月～２月・全 12 回）

４．ジュニアチャレンジ講座

小学生が身近なスポーツに触れるきっかけをつくる。

（１）バドミントン教室（７月・全５回）
（２）ポスター教室（７月・全８回）
（３）和太鼓教室（７月～８月・全５回）
（４）科学スクール（８月・全１回）
（５）Jr 卓球（12 月・全４回）
（６）凧で遊ぼう（12 月・１回）

５．シルバー企画講座

シルバー人材センターが企画し、シルバー会員が講師を務める講座。

（１）水辺の昆虫観察（５月）　（２）絵手紙（６月）
（３）習字（７月）　（４）ジュニア将棋（８月・全３回）
（５）クラフト細工（８月）　（６）筆ペンで名前書き（９月）
（７）しめ縄作り（12 月）　（８）ミニ門松づくり（12 月）
（９）生け花作り（12 月）
（10）プログラミングと頭の体操（１月～３月・全３回）

６．防災講座

当センターは豊橋市の第２指定避難所になっており、地域住民に呼びかけて災害への備えや避難所運営の在り方などを学ぶ機会とする。

（１）防災体験講座（６月）

７．青少年センターフェスティバル（10 月・全９日間）

８．センターボランティアスタッフ事業（通年）

学生がセンター主催事業にボランティアとして参加し、様々な体験を通して地域の方との触れ合いの機会とする。

９．レクリエーション・インストラクター養成講座（５～９月・全９日間）

地域や職場で活用できるレクリエーションリーダーとしてのスキルを身につける。

Ⅴ　その他の取り組み

１.利用促進について

（１）魅力的な自主事業

「やさしいヨガ」を新たに開設した。これまで体を動かす講座は、19 時半から開催していたが、参加しにくい人もいることを考慮して１時から行った。若い主婦の方などの参加が見られた。広い年齢層の方に参加しやすい文化系の講座として「はじめてのオカリナ」「はじめての俳句」を開設した。男性を含め多くの方の参加があり、趣味を広げるきっかけになればと期待している。

またシルバー企画として「水辺の昆虫観察」「クラフト細工」「筆ペンで名前書き」を行った。

「水辺の昆虫観察」では、身近にいる生き物と接する機会が少なくなっている子どもたちの興味を引き出すことができた。「筆ペンで名前書き」は希望者がとても多く４倍以上の倍率となった。

（２）新たな利用者の開拓

近隣大学（愛知大学、豊橋創造大学）の学生に参加を呼び掛けるために、講義の時間に直接話をしたり、チラシを配布したりし、青少年センターの活動を紹介し、レク養成講座やボランティアスタッフへの参加を呼びかけた。その結果、レクリエーション・インストラクター養成講座に３人、ボランティアスタッフに５人の学生が登録して活動した。

（３）動画によるＰＲ

今後開催予定の講座を紹介するために、チラシの掲示に加えて、玄関ロビーにPR動画を終日流している。他の用事で来館した人が興味をもって見ている。講座参加にどれほど反映されているかは明らかではないが、随時動画を更新しており、一定程度の宣伝効果を期待している。

（４）ちらしデザインの工夫

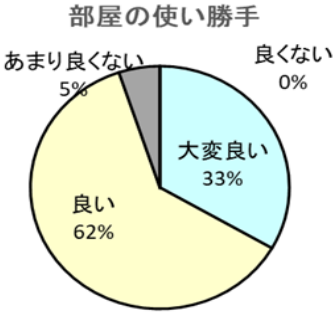
１年間に実施する講座は40を超える。職員が分担してチラシをデザインしている。初めは慣れなかった職員も、他のチラシを見ながら少しずつ魅力的なデザインが創作できるようになった。

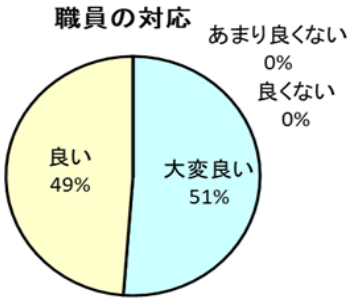
２．施設の修繕・環境整備について

研修棟天井工事/宿泊棟排水管詰まり清掃/宿泊棟トイレフラッシュ弁当取替工事/中央棟換気扇取替工事（３か所）/高木剪定（11本）

３．外部評価について

９月に利用者アンケートを行った。「団体用」、「個人用」に加えて今回から「Eメール」での回答も受け付けることにした。質問項目は主に施設設備に関することと、職員の対応に関することとし、選択肢は４択とした。結果、おおむね良い評価を得たが、いくつかの要望や問題点も指摘された。今後内容を分析し、我々で改善すべきは改善し、大きな予算を伴うものやルール変更が必要な事項については担当課に伝えた。





４．地域・企業・関係団体との連携について

（１）センターボランティアスタッフ事業

中高生、大学生が当センター主催事業にボランティアとして年間を通して参加し、様々なことを体験し地域の方との触れ合いの機会とする。５月の説明会に新たに６人が参加し、昨年度からの継続４人と合わせて10人が登録した。６月の防災体験講座に３人が参加した。

（２）防災体験講座への地元自治会への働きかけ

当センターは豊橋市の第２指定避難所になっており、近隣自治会長や地域住民、避難所要員となっている市職員に呼びかけて災害への備えや避難所運営の在り方などを学ぶ機会とした。

（３）青少年健全育成の推進

ボーイスカウトや海洋少年団など市内の多くの青少年団体が、当センターを活動拠点としている。しかし多くの団体の組織率は低下し、活発な活動ができない状況にある。より多くの市民にそれぞれの活動を知ってもらうために、今年度から情報紙「ヤングウェーブ」で団体紹介のコーナーを設けた。また、６月には各団体代表と生涯学習課を交えて「豊橋市青少年団体会議」を開催し、さまざまな情報交換を行った。

青少年センターフェスティバルで、昨年初めて青少年団体（センター内に事務所を持つ団体、及び活動の拠点としている団体）に呼び掛けて活動報告の展示を行った。今年度は加えて、活動報告やパフォーマンスを来館者に向けて直接行ってもらえるよう協力を依頼した。

Ⅵ まとめ

（１）利用拡大

利用者数の年間累計は前年度と比べて 19%の増加となっている。新型コロナ感染による行動制限が緩和されるにしたがって利用者数は増え、徐々にコロナ禍前の状況に戻ってきている。特に宿泊利用は前年度と比べて４倍以上になっている。これまであまり宿泊利用の無かった団体が、一度使ってみて再度利用されるケースが見られる。宿泊棟を気持ちよく使ってもらえるように、備品や環境の整備に努めた結果と思われる。

また、体育室を中心に固定した団体が定期的に利用する傾向が強い。新規の利用者の発掘を図るためにホームページや情報紙、市の広報紙などによる情報発信のほか、インスタグラムのフォロワー数を増やすこと取り組んでいきたい。

（２）施設の老朽化について

築 50 年近く経過し、建物・設備の老朽化や運動場の水はけ等の問題が山積している。できるだけ職員で補修し、大掛かりな工事は担当課と協議して進めている。

（３）利用者の便宜について

より利用しやすい施設となるように、規定を修正していきたい。（例えば音楽室の個人利用とか、体育室の半面貸しを可能にするなど。）しかし、いずれも条例改正が必要なために実現できないことが多い。担当課にこまめに情報を提供し、要望事項を伝えていく。

（４）物価高騰

当センターのこれまでの電気使用料金は年間 270 万円前後であったが、現在は 370 万円前後となっている。燃料費、電気料金の高騰は多くの物価を押し上げることになり、その結果、センターの経営を圧迫している。今年度は指定管理料の補正予算を要望したが実現しなかった。そのためあらゆる支出を切り詰めることによりなんとか凌いだ。次年度引き続き支出を抑える努力をしていくが、事業の質を維持していくために担当課に厳しい現状を具体的に提示し、補正予算が獲得できるよう働きかけていきたい。

■まちづくり

Town planning

Ⅰ. 実施概要

愛知県内外の市町村並びに、各団体・組織が主催するイベント・会議・委員会などに参画する。そして情報交換、意見交換を行いながら、地域防災力の向上に寄与する。

Ⅱ. 目標･計画と実績

地域のまちづくりに寄与することにより、他団体や地域とのネットワークを広げ、災害時の支援体制を強化することを目標とする。

Ⅲ. 実施した事業内容（期中に就任していた委員等の名称及び参加した会議を記載）

１．愛知県域・県外における活動

（１）総務省　地域力創造アドバイザー

（２）東海北陸地区青少年教育施設協議会

（３）愛知県人権・社会教育委員会

（４）希望郷いわて文化大使（岩手県）

（５）すみた大好き大使（岩手県住田町）

２．豊橋市における活動

（１）豊橋市 子ども・子育て会議

３．刈谷市における活動

（１）刈谷市共存・協働のまちづくり推進委員会（５月・10 月・３月）
同夢ファンド部会（６月・11 月）まちづくり活動支援事業補助金公開審査会（１月）

（２）刈谷市生活支援・介護予防体制整備推進協議会（７月・11 月・２月）

（３）輪～るど・ビレッジ小垣江準備委員会
①輪～るど・ビレッジ小垣江ミーティング（４月、５月、７月、８月、９月、10 月、１月、３月）
②「世界と出会おう！」多文化イベント（10 月）

（４）協働のまつり場ヒアリング（12 月、２回）

（５）多世代交流推進協議会（８月・３月）

（６）刈谷市多世代交流推進協議会

（７）わがまちのしゃべり場

４．安城市における活動

（１）安城市 国民保護協議会

（２）安城市 防災会議委員

５．西尾市における活動

（１）西尾市 市民活動センター運営委員会

６．大府市における活動

（１）森岡公民館 生涯学習推進委員会（５月、９月、12 月、２月）
（２）大府市協働推進委員会（５月、７月、11 月、３月）
（３）おやじの学び舎 2022（５月～12 月　全５回）
（４）森岡公民館まつり準備委員会（６月、８月、11 月）
（５）森岡公民館 利用団体会議及び森岡公民館まつり実行委員会（９月、11 月）
（６）大府市生涯学習研究集会（１月）

７．知立市における活動

（１）知立市 国民保護協議会

８．美浜町における活動

（１）美浜町 都市農村交流協議会（６月）
（２）美浜町スポーツまちづくり推進会議（６月、11 月）
（３）小野浦地区自主防災会（通年）

■市民活動支援

NPO SUPPORT

● 刈谷市民ボランティア活動センター

センター概　要

場　　所 ： 刈谷市東陽1丁目 32 番地 2
電　　話 ： 0566-62-8231
ファクス ： 0566-62-8232
Ｅ－ｍａｉｌ ： kcv109box@katch.ne.jp
Ｕ　Ｒ　Ｌ ： http:// kcv109box.jp/
開 館 時 間 ： 9 時～21 時
休　館　日： 毎週月曜日(祝日の場合は火曜日)、年末年始(12月29日～1月3日)
主 な 施 設 ： 交流スペース、談話スペース、作業スペース、情報スペース、メールボックス、ロッカー、多目的トイレ、駐車場
使 用 料 金 ： コピー機使用は実費負担　印刷機は無料(ただし用紙は利用者が持参)
※施設、ロッカー、その他機材の使用は無料
談 話 スペース ： 登録団体が打ち合わせ・団体間の交流の場として利用
※テーブルは 18 席が 4 島あり　72 席で利用することも可能
ロ ッ カ ー ： 活動に必要な備品などを保管する場所として利用。(ロッカー数は、47 個)
メールボックス ： 各団体間の連絡、文書・チラシの配布や団体宛の郵便物、ファックスの一時保管場所として利用(メールボックス数　36 個)
作 業 スペース ： 印刷機、紙折機、製本機、丁合機、裁断機、紙そろえ機、ラミネーターを設置。
貸 出 備 品 ： プロジェクター、ノートパソコン、スタッフコート(10着)、クリスマスツリー(2セット)、サンタクロースの衣装、スポットライト、バルーンアート空気入れ(5本)、ビンゴマシン、布ぞうり製作台(6台)、レーザーポインター、ハンドベル、防災カルタ、非常持ち出しゲーム、いえまですごろく、非常持出展示品、高浜かるた、紙芝居枠(大・小)、名札、腕章など

Ⅰ　センターの役割と任務

１．委託業務名・目的

（１）業　務　名：刈谷市民ボランティア活動センター管理運営委託

（２）事業の目的：様々な分野で活躍する市民ボランティア活動団体を支援するとともに、活動に対する市民の意識啓発を図り、市民ボランティア活動を推進する。

（３）実 施 期 間：令和４年４月１日～令和９年３月 31 日の５年間

Ⅱ　運営目標

市民活動団体、行政、事業者との連携は順調に推移し多くの成果を挙げてきた。しかし地縁団体との連携は充分に推進できていない。そこで市民ボランティア活動団体がより社会課題の解決に向けて刈谷市内の地縁団体との交流・連携を深め、地域に入り込んでいくことが特に必要と考える。

そこで指定期間５年間の運営目標を「地縁団体との連携を見据えた市民ボランティア活動団体育成・支援環境の新しいモデル作り」とする。

今年度は市民ボランティア活動団体の協働・連携先として地縁団体の掘り起こしを進め、地域課題や問題の解決に向け支援していく。

Ⅲ　数値目標と進捗状況

１．数値目標

登録団体、個人会員数、来館者数などの評価指標については、前年実績の維持向上を狙う。

２．事業回数

指定管理者として企画提案した事業（スキルアップ５回、車座集会５回、わがまちのつむぎ場１回、啓発イベント３回、交流イベント１回）を確実に実施する。

	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	実績	実績	実績	目標	実績	達成率
総来館者数	20,960 人	11,142 人	12,551 人	12,551 人	14,246 人	113.5%
相談件数	1,344 件	1,516 件	1,293 件	1,293 件	1,253 件	96.9%
マッチング件数	118 件	79 件	80 件	80 件	80 件	100.0%
団体登録	537 団体	543 団体	547 団体	547 団体	553 団体	101.1%
個人登録者	199 人	151 人	149 名	149 名	133 名	89.3%

Ⅳ　実施した事業内容

１．車座集会

市民活動に関心のある方を対象に、交流や意見交換を行い協働・連携のきっかけづくりやノウハウを共有する。

（１）実はカンタン！！今日からできるまちづくり（５月）

（２）つながりが人生を豊かにする（７月）

（３）荒地は人の心を荒廃させる（10 月）

（４）里親支援専門相談員さんの話を聞いてみよう（10 月）

（５）今生かされている命を考える（３月）

２．スキルアップ講座

市民活動団体の問題解決のスキル向上やリーダーを育成、支援する。

（１）かんなくずアートを体験してみよう

①地域サロンなど担当者向け（５月）

②子ども会など指導者向け（６月）

（２）「いえまですごろく」を体験して防災について考えよう！（７月）

（３）展示型まなぼうさい もしもの災害に備えていますか？（７月）

（４）つながるねットリニューアル説明会（12 月、４回）

３．啓発イベント

センターに関わりがなかった方々へアプローチし新規開拓を行う。

（１）収集活動（ﾌﾟﾙﾄｯﾌﾟ・古本・ｲﾝｸｶｰﾄﾘｯｼﾞ他）（４月～３月）

（２）放課後ちょこっとボランティアプロジェクト（５月～10 月）

放課後ちょこっとボランティアプロジェクト贈呈式

（遊具、時計の寄贈）（12 月）

放課後ちょこっとボランティアプロジェクト

ひかりの家施設訪問（12 月）

（３）あったかハートまつり（ブース展示）（５月）

（４）ミニミニ講座ティッシュペーパークラフト体験

（６月、７月・全７回）

（５）ミニミニ講座にじいろストラップづくりの体験

（７月、８月、９月）

（６）学習発表会（11 月）

（７）己書を描いてみよう（11 月）

（８）かりや 3.11 を忘れない（３月）

４．交流イベント

（１）わがまちのつむぎ場 14 参加団体の紹介パネル展示（11 月～12 月）

（２）わがまちのつむぎ場 14 団体交流（12 月）

（３）つながるねットボランティア団体交流会（10 月）

（４）つながるねット情報サイト紹介動画制作と PR

衣浦定住自立圏会議メンバーでつながるねット情報サイトの動画を作成し、知立市のイベントや来館者へサイト利用の PR に努めた。

５．学生・研修生等の受け入れ

（１）愛知教育大学センター受入（４月）

《テーマ》NPO 支援の目的と内容　センターから見たまちづくりとは

（２）インターンの受入（８月）

《テーマ》センター概要、ボランティア団体を取り巻く環境他

（３）インターンシップ研修（８月）

《概要》災害救援の NPO 法人愛知ネットがなぜ市民活動センターを運営するのか。

Ⅴ その他の取り組み

１．利用促進について

（１）利便性の向上

コロナ禍により少人数利用、Web 会議開催など施設の利用に変化が出てきた。そのため施設の利便性を向上させ利用者数の増加を目的に実施した。

①Web 会議スペース新設（２か所）

結果：13 件利用があり好評である。

②談話スペース A・B 区画を少人数向けに変更（９名→６名に）

結果：少人数で利用しやすくなった。大人数の利用団体から苦情はない。

③交流スペースを２倍にし使用の幅を広げる

結果：団体の相談会や説明会、ミニミニ講座などで使用され好評である。

④印刷機の利用は 20 枚以上と制限していたものを今年度から１枚から印刷利用可能にした。

結果：大変好評である。

⑤利用促進に向けた改善やレイアウト変更についてまとめた「利用方法の変更についてのご案内」を利用団体に配布し利用者拡大に努めた。

結果：事前に配布したことにより予約や利用での戸惑いや混乱はなかった。

２．施設の修繕・環境整備について

施設の有効利用、利便性向上や施設周囲の環境保全にも努めた。

（１）施設予約ソフトを変更し、予約最小時間 30 分刻みを 15 分に変更したところ好評である。

（２）移動可能な大型モニターを設置する。好評である。

（３）刈谷市民交流センター周囲の道路や遊歩道のクリーン活動を行う。

市が推進するクリーンサポート刈谷に登録し、自主的に清掃活動を行った。

（４）グリーンカーテンづくりでＣＯ$_2$削減に貢献。

３．地域・企業・関係団体との連携について

（１）NPO 法人中部プロボノセンターとの共催事業

（２）刈谷市ボランティア協議会との共催事業

（３）デンソーグループハートフルフレンドとの共催事業

（４）県立刈谷北高等学校のボランティア活動支援

（５）企業のボランティアグループ、NPO 法人との連携

４．人員体制・職員研修について

（１）つながるねット、新サイト移行への意見交換。

（２）スキルアップ

今年度個人目標を設定（助成金の勉強、マッチング団体の活動見学など）

（３）相談業務のレベル向上

研修会報告や行政の動き、各種団体の紹介など輪番制で行い相談のスキル向上に努めた。

Ⅵ まとめ

（１）情報サイトの利用促進

かりや衣浦つながるねットのリニューアルに伴い、12 月に団体事務局向け説明会を行った。次年度はより多くの団体に、サイトへボランティア募集や活動紹介など掲載をしていただけるように、きめ細かな説明会や相談窓口など設け支援していく。また新情報サイトパンフ作成や PR イベントを通じて市民に PR していく。

（２）市内 23 地区の活動見える化とつながりづくり

地区の特色ある活動や困りごとを紹介するパネル展示を次年度も継続し、残り８地区に対して取材しパネル展示を行う。また行政や企業にも積極的な参加を呼びかけ、行政や企業との相互理解とつながるきっかけをつくっていく。

（３）若者層の取り込み

中学生から大学生まで参加した「放課後ちょこっとボランティアプロジェクト」はひかりの家に遊具などの寄贈ができ学生の喜びも大きかった。次年度はボランティア団体の一起会に指導をお願いし、団体に対して学生の取り込みのきっかけを作っていく。また他団体にも学生取り込みの可能性を探る。

（４）魅力ある運営で来館者を増やす

昨年度の来館者数は前年に比べて増えてはいるが、コロナ前の水準までには戻っていない。次年度は新たなる階層へのアプローチなど、創立 20 周年イベントとして啓発イベントの企画を充実させていく。

●大府市民活動センター（コラビア）

センター概 要

場　　所 ： 大府市森岡町４丁目８番地
電　　話 ： 0562-44-8500
ファクス ： 0562-44-8511
E－MAIL ： collabia@ma.medias.ne.jp
U　R　L ： http://www.collabia.jp/
開館時間 ： 9 時～22 時
休 館 日 ： 毎週月曜日、お盆(8 月 13,14,15 日)
　　年末年始(12 月 28 日～1 月 4 日)
主な施設 ：
中央ロビースペース、受付・相談窓口（事務室）、交流スペース、情報コーナー、印刷室（作業室）、貸ロッカー（20 区分）、第 1（大）会議室、第 2（小）会議室、給湯室、団体活動室（4 区画）、料理室（ワンデイシェフ用）、多目的トイレ、相談室

Ⅰ　センターの役割と任務

１．委託業務名・目的

（１）業　務　名：大府市民活動センター指定管理業務
（２）事業の目的：大府市協働のまちづくり推進条例に基づき、市民活動の健全な発展を図る。
※市民活動とは、市民等が自主的に参加して自発的に行う地域社会に貢献する活動をいう。
（３）実 施 期 間：令和２年４月１日～令和５年３月 31 日

Ⅱ　事業実施計画

１．狙　い

市民活動団体からの相談に対応し、団体相互の連携・協働に寄与し、信頼されるセンターを目指す。

２．目　標

（１）相談件数　550件以上　（令和３度相談件数416件）
（２）マッチング件数　40件以上　（令和３度マッチング件数38件）
（３）エンジョイ！コラビア、団体交流会、コラビアまつりへの新規参加団体数　18団体以上
（４）ＮＰＯ新規認証団体数　１団体以上
参考：来館者数　22,500人以上（令和３年度14,701人）

３．重点施策

（１）相談件数、マッチング件数の目標を意識した日常業務を行う。
（２）団体の活動が充実・活性化するために、企業、行政、他団体との連携・協働を計り、特に地縁団体との連携を密にして市民団体との連携を促す。
（３）団体の活動を充実・活性化するために、ファンドレイジングへの理解を深め、継続的に活動を展開できる資金の調達を促す。

Ⅲ 進捗状況

	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	実　績	実　績	実　績	目標	実　績	達成率
総来館者数	21,922 人	9,002 人	14,701 人	22,500 人	17,315 人	70.0%
相談件数	502 件	352 件	416 件	550 件	425 件	77.0%
マッチング件数	32 件	10 件	38 件	40 件	40 件	100.0%
団体登録	393 団体	342 団体	353 団体	395 団体	310 団体	78.0%
個人登録者	77 人	3 名	85 人	90 人	85 人	94.4%

Ⅳ 実施した事業内容

１．車座集会

（１）プロボノ説明会（５月）

（２）今生かされている命を考える～東日本大震災語り部が伝える～（６月）

（３）はじめての性やいのちのお話会（７月）

（４）子どもも一緒に、災害避難所での役立つ体験をしてみよう！（８月、９月）

（５）親子で SGDs を実践～生ゴミから？土作り＆寄せ植え作り～（２月）

２．スキルアップ講座

（１）コミュニケーション講座Ⅱ～心地よいつながりのヒント～（４月・２回）

（２）「チラシの作り方」講座（12 月）

（３）親子で SGDs を実践～生ゴミから？土作り＆寄せ植え作り～（２月）

（４）「協働企画提案事業交付金制度」を活用しよう（３月）

３．啓発イベント

（１）エンジョイ！コラビア 2022～ぼくとわたしの夏休み大作戦～（７月）

（２）コラビア交流会出展団体事前全体会議（ステージ企画検討）（９月）

（３）大府市福祉・健康フェア（防災クイズ、非常持ち出しゲーム体験、防災グッズ展示）（９月）

（４）コラビア交流会 2022（10 月）

４．市との連携事業（おやじの学び舎 2022）

（１）おやじの学び舎 取材班～ショートムービーを作ろう！～（６月、10 月、11 月・全５回）

（２）高齢者デジタルサポーターによる「高齢者スマフォ講座」（11 月）

５．ワンデイシェフ事業

食育・居場所作り・伝統野菜のＰＲ等、社会や地域課題をテーマに活動している団体がワンデイシェフとして登録し、料理室となりの交流スペースを「こらび庵」と称し、不定期でランチを提供する。

（１）こらび庵（４月～７月、９月～３月・全 105 回）

（２）こらび庵シェフ会議・衛生講習会（７月）

（３）ビストロおぶちゃん審査会＆表彰式（11 月）

６．主催事業

（１）第 14 回コラビアまつり（３月）

７．自主事業

（１）第 11 回「心ひとつに 3.11」（３月）

Ⅴ　その他の取り組み

１．利用促進について

（１）公式 LINE アカウント

各種講座やイベント情報、こらび庵ランチスケジュール等の案内

（２）モッタイナイ BOX とカレンダーコーナーの設置

学校の冬休み期間中に館内入口にて、物々交換とカレンダー無料配布コーナーを設置した。

（３）募金箱の設置

ウクライナ避難民支援に 16,220 円、赤い羽根共同募金に 2,487 円の募金が集まった。

２．メディア掲載

（１）中日新聞知多版（９月７日中日新聞知多版）

エンジョイ！コラビア 2022(7/21～31)期間中に設置した募金箱に集まった 11,150 円を、大府市在住のウクライナ避難民支援を行っている「大府国際交流協会」に寄付したことが掲載された。

（２）中日新聞掲載(知多版)とエリアニュース放送(知多メディアス)

３月５日に開催された第 14 回コラビアまつりの様子が中日新聞に掲載、ならびに知多メディアスのエリアニュースにて放送された。

３．施設の修繕・環境整備について

（１）グリーンカーテン設置

ゴーヤ、パッションフルーツの植樹

（２）北側屋外裏勝手口の整理

プランターを始め、園芸用品や器具等の整理整頓

（３）入館管理のデジタル化（DX 推進）

目的：来館者の利便性向上、データのデジタル管理、業務効率化

今後の進め方：利用実績積み上げとシステム改善・横展開検討

４．地域・企業・関係団体との連携について

（１）愛知県立もちのき特別支援学校とのパートナー登録

①実習生の受け入れ

② ペットボトルキャップの回収

生徒が集めたペットボトルキャップを授業の一環として回収した。

③特別支援学校、学校訪問

市内の防災ボランティア活動団体と訪問し、生徒への防災教育のアドバイスを行った。

（２）大府市福祉・健康フェア

スタッフ１名が実行委員として企画段階からフェアに携わった。

（３） 認知症カフェ交流会

大府市高齢障がい支援課主催の「認知症カフェ交流会」のサテライト会場として、コラビア交流スペースを使用した。

５．人員体制・職員研修について

（１）愛知ネット職員 AED 講習会

（２）愛知ネット内職員研修

「労働者協同組合法」スタッフ研修＠刈谷市民活動センター

（３）消防避難訓練

（４）愛知県内支援センター情報交流会 2022

ボランティアコーディネーション力３級　４名全員合格

（５）防災士資格

スタッフ１名が防災士の資格を習得

（６）食品衛生責任者資格

（７）センタースタッフ交流会（主催：地域の未来・志援センター）

Ⅵ ま と め

１．今後の課題と目標

昨年 11 月より行っていたコラビア登録団体の情報の棚卸し作業が 3 月末に完了し、最終的に活動の停止または団体の解散を理由に、50 以上の団体が登録の抹消を希望された。

今回減った団体数を元に戻すまで、時間がかかると思われるが、先日開催されたコラビアまつりや後日に行われたまつりの反省会では、市民活動団体から今後の活動へ向けた想いの熱量を受け取る事ができ、市内の市民活動の再活性化への期待を大いに感じる事ができた。

また、年明けより新規団体発生からの新規登録も増えてきており、既存団体とのマッチングやサポート業務をしっかり行いつつ、次年度を市民活動の新たな「リスタート」の年といえるようにしていきたいと思っている。

●碧南市市民活動センター【サポプラ】

センター概 要

場　　所 ： 碧南市山神町８丁目 35 番地
　　へきなん福祉センターあいくる内
電　　話 ： 0566 - 42 - 6561
ファクス ： 0566 - 42 - 6571
E－mail： info@hekinan-plaza.jp
ホームページ：http://hekinan-plaza.jp/
開館時間 ：火 ～ 土曜日　９時～21 時
　　日曜日・休日　９時～17 時
休 館 日 ：毎週月曜日、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）
主な施設　：ミーティングコーナー、おしゃべりコーナー、情報コーナー、印刷室

Ⅰ　センターの役割と任務

１．委託業務名・目的

（１）業　務　名：碧南市市民活動センター指定管理業務

（２）事業の目的：利用者をはじめとした市民ニーズの把握及びこれを十分に反映した運営・支援を実現し、市民に必要な情報提供等を行うことで、市民活動センターが市民活動、ボランティア活動、町内会活動等（以下「市民活動等」という。）を支援することを目的とする。

（３）実 施 期 間：平成 31 年４月１日～令和５年３月 31 日（受託期間：令和６年３月 31 日まで）

Ⅱ　事業実施計画

１．数値目標

（１）　相談件数　　128件以上

（２）　マッチング件数　　29件以上

２．重点施策

（１）相談件数、マッチング件数の目標を意識した日常業務を行う。

（２）団体・個人のスキル向上を積極的に支援する。

（３）企業、行政、自治会、他団体との連携・協働を促し、元気なまちづくりを支援する。

Ⅲ　目標と実績

	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	実　績	実　績	実　績	目標	実　績	実　績
総利用者数	10,670 人	6,401 人	6,025 人	－	7,798 人	－
相談件数	412 件	111 件	122 件	115 件	128 件	106.1%
マッチング件数	103 件	34 件	28 件	36 件	59 件	77.8%
団体登録	262 団体	272 団体	276 団体	－	278 団体	－

※各年度の総利用者数は、あいくるまつりなどのイベント来場者数を除く。

Ⅳ 実施した事業内容

１．車座集会

市民活動に関心のある方を対象に、交流や意見交換を行い協働・連携のきっかけづくりやノウハウを共有する。

（１）スペシャル車座集会「きっと見つかる！ボランティア!!」（６月）

（２）過去夏休み SDGs スペシャル企画
「身近な生き物が住む環境をちょっとのぞいてみよう」（７月）

（３）地震発生！その時あなたは・・・どうする？避難所ってどんなとこ？（10 月）

（４）親子で楽しむクリスマス　サポプラ de クリスマス（12 月）

（５）補助金を上手に使おう（３月）

２．スキルアップ講座

市民活動団体の問題解決のスキル向上やリーダーを育成・支援する。

（１）「オンライン会議を主催する　Zoom ホストの始め方」（４月）

（２）「私もロゴ作りに挑戦」（５月）

（３）「SDGs de まちづくり」（８月）

（４）知っておきたいことがある。備えておきたいことがある。（10 月）

（５）みんなが手に取るチラシ作り（１月）

Ⅴ その他の取り組み

１．利用促進について

５月に愛知県中央信用金庫本店にて昨年度開催のへきなん自転車散歩の写真展示会が開催され、活動の PR と今年度の開催予告 PR を行った。

２．施設の修繕・環境整備について

キッチンコーナーの蛇口が老朽化のため正しく操作ができなくなったため、交換修理を行った。

３．団体・企業・行政との連携

（１）「つなが輪へきなん」の組織化

トヨタ自動車株式会社と碧南青年会議所、市民活動センターで、各市民団体の課題を掘り起こし解決するために、経験やノウハウを持つプロボノ的な役割をもった緩やかなチーム『つなが輪へきなん』を組織した。現在月に１回程度の頻度でミーティングを行い、今後の動きを調整している。

（２）企業からの寄付

①トヨタ自動車株式会社

「ボランティア活動や環境保全活動などの支援に対して」375,000 円の寄付をいただいた。市民活動団体が利用できる備品などを購入してほしいとの話があり、貸し出し用テントを購入した。

②スギ製菓（株）

「たこせんべい」の年間売り上げ高の１％に相当する 46,694 円の寄付をいただいた。スギ製菓の杉浦社長からは、海に関連するイベントや団体に使ってほしいとの話があり、７月に海浜水族館で実施した車座集会の際に、講座のチューターをお願いした団体への協力者金として支払ったことと、参加者へのお土産としてたこせんべいを配布した。

（３）プロボノ相談会

中部プロボノセンタープロボノの内藤寿久氏による、市民団体個別相談会を開催した。

（４）碧南工科高校防災授業・防災訓練

災害への備えを学ぶ会が中心となり、碧南工科高校（先生と生徒８名）で今年度１年間を通して防災授業を行った。さらに工科高校を指定避難所にしている久沓地区、田尻地区などの住民代表とを加え、FMB（ファーストミッションボックス / 本年度から碧南市の指定避難所に配備されている）を使った避難所開設訓練を３月に実施した。

（５）碧南市防災課との定例ミーティング

碧南市防災課と地区役員代表、碧南防災ボランティアおよび災害への備えを学ぶ会は、毎月一回定例のミーティングを開催している。今年度から始まった、FMB（ファーストミッションボックス）の展開を主なテーマとして、行政、地区との調整を進めている。

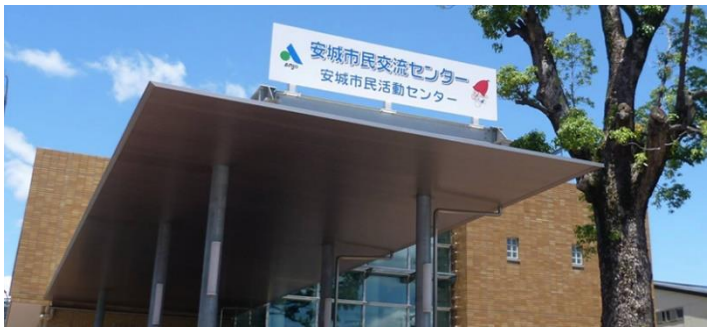
（６）災害ボランティアセンター会議

へきなん福祉センターあいくるは、災害発生時に災害ボランティアセンターとなる。そのため、碧南市社会福祉協議会の担当者と碧南防災ボランティア連絡会と碧南市市民活動センターとで定期的な会議を、本年度より開催している。現在、碧海５市の社協関連団体が作成した災害ボランティアセンター運営マニュアルの読み合わせ、必要な備品類の確認などを行っている。今年度中には、災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練が開催できるように準備を進めている。

Ⅵ ま と め

碧南市で開催されてきた「市民ふれあいフェスティバル（社会福祉協議会が事務局を担当）」が第 28 回目をもって終了した。これまでこのフェスティバルに参加してきた市民団体から、日頃の活動成果を発表する場がなくなってしまったなどの相談が寄せられた。そこで、市民活動センターのまつりとして実施してきた「サポプラまつり」を発展的に解消して、「新しい市民活動まつり（名称は別途検討）」を開催していきたいとの要望書を作成し、禰冝田市長に提言した。来年碧南市は市制 75 周年でもあるので、新たに新し市民活動まつりの実行委員会を組織して、開催に向け予算が付き企画・準備・運営をしていくことになった。

● 安城市民交流センター



センター概　要

場　　所 ： 安城市大東町 11 番 3 号
電　　話 ： 0566-71-0601
ファクス ： 0566-71-0668
E-mail ： info@wakuwakucenter.jp
U R L ： http://wakuwakucenter.jp/
開館時間 ： 9 時～21 時
休 館 日 ： 毎週月曜日(祝日を除く)、年末年始（12月29日～1月3日）

Ⅰ　センターの役割と任務

１．委託業務名・目的

（１）業　務　名：安城市民交流センター管理運営委託

（２）設置の目的：世代を超えた市民相互の交流の促進及び市民活動（営利を目的とせず、自主的に行う公益的な活動であって、規則で定めるものをいう。以下同じ。）の活性化を図るため、市民交流センターを設置するものとする。

（３）実 施 期 間：平成 30 年４月１日～令和５年３月 31 日

Ⅱ　事業実施計画

１．数値目標

来館者数　30,000 人　　団体登録数　　463 団体（前年より 12 団体の増加目標）
相談件数　　200 件　　マッチング件数　50 件

２．事業回数

指定管理者として企画提案した指定事業は（スキルアップ講座５回・わくわくサロン５回・わくわくフェスティバル・団体交流会・まちづくりの担い手養成講座・ミニ講座など）年間 20 回以上開催することを目標とした。

Ⅲ　進捗状況

１．数値目標

	R1年度	R2年度	R3年度	R４年度		
	実　績	実　績	実　績	目標	実　績	達成率
総利用者数	63,088 人	25,579 人	33,376 人	30,000 人	41,576 人	138.5%
相談件数	267 件	281 件	388 件	200 件	333 件	166.5%
マッチング件数	84 件	24 件	31 件	50 件	40 件	80.0%
団体登録	446 団体	449 団体	451 団体 ・取消 15 団体 ・新規 17 団体	463 団体 （プラス 12 団体）	445 団体 取消 30 団体 新規 24 団体	96.1% （新規登録数 200%達成）

Ⅳ　実施した事業内容

１．わくわくサロン

市民活動のきっかけづくりや、新たな活動の視点を得る講座

（１）やってみよう！子ども食堂ボランティア（５月）

（２）オーガニック給食と子どもたちの未来（６月）

（３）食品ロスをなくそうウィーク（８月）

（４）やってみよう！国際交流ボランティア（９月）

（５）江戸時代の数学、和算でわくわく！（11 月）

（６）フードドライブ～おうちでできる×SDGs～（12 月）

２．スキルアップ講座

現在活動している団体を対象に、活動に必要なスキルを提供する講座

（１）Zoom 使い方講習会 ＜初級＞ゲスト参加を体験！編（４月、７月、10 月、１月）

（２）Zoom 使い方講習会 ＜中級＞ホスト役に挑戦！編（４月、７月、10 月、１月）

（３）ＳＤＧｓ活動戦略講座（７月）

（４）新情報サイトを活用した活動ＰＲ塾（12 月～３月）

（５）まちづくりを仕事にする新しい働き方（２月）

３．市民協働サポーター養成講座

ボランティアコーディネータ力を学び、まちづくりに携わる人材を養成する全３回講座

（１）未来応援プロジェクト（６月、７月２回）

４．市民活動者同士の交流　協働促進事業

他分野の活動者が互いの活動を知り合い、協働のまちづくりを考えるセミナー・イベント等。

（１）安城のまちづくりマッチング交流会月（11 月）

（２）安城まちづくりオトナカフェ（12 月より毎月１回開催）

（３）フードドライブ寄付食品シェア会（１月）

（４）市民活動補助金審査会後のぷち団体交流会（１月）

各事業の報告書が読めます。

５．市民相互の交流　促進事業

世代を超えた市民相互の交流の促進となる楽しく参加しやすいイベント等

（１）わくわくフェスティバル 2022　（８月）

（２）子ども食堂ボランティア体験会（８月）

（３）ペアで作るバレンタインクッキング（２月）

６．他団体との協働事業

地域活動団体や市民活動団体と協働で行う交流サロンやネットワーク会議等

（１）多文化共生サロン Anjoy English Café

（２）ふれあい喫茶「わくわく」

（３）協働のまちづくり推進事業　中間支援組織ボランティア支援担当者会　（５月、２月）

７．自主事業

（１）不登校の子と親の交流会「おこのみ会」（毎週）

（２）子ども食堂ボランティア養成研修　（６月）

（３）防災啓発事業　避難持ち出し品展示と防災意識調査（２月～３月）

Ⅴ　その他の取り組み

１．利用促進について

（１）安城市広報 ４月号「ディープな世界にようこそ」掲載

（２）ケーブルテレビ KATCH での事業 PR

・食品ロスをなくそうウィーク

・わくわくフェスティバル 2022

（３）ボランティア情報誌「ぼらりん」発行

年４回発行／発行部数 600 部／市内公共施設に配架

（４）SNS での情報発信

	投稿内容	投稿数	ﾌｫﾛﾜｰ数	平均ﾘｰﾁ
センター公式 LINE	・センター情報・ボラ募集情報	32 回	305 人	
Instagram	・市民団体主催のイベント PR、 ・センター利用団体の活動紹介	131 回	562 人	685 人
Facebook		186 回	625 人	直近最多 892 人
Google ビジネス プロフィール	・施設・設備の紹介 ・口コミへの返信	更新回数 10 回		閲覧ユーザー数 1927 回/月

２．施設の修繕・環境整備について

（１）市民活動情報サイト リニューアルに向けた移行作業開始

６月 20 日～リニューアル完了　登録情報の更新一時停止

（２）エアコン室外機修繕（１階南ライン）

（３）２階用掃除機　買い換え（７月）

（４）女子トイレ　ウォシュレット付き便座　取り換え修繕（８月）

（５）音楽室ドラム修繕(12 月)

（６）ＤＶＤプレイヤー修繕（２月）

３．外部評価について

（１）令和４年度第１回指定管理者外部評価部会 現地視察・ヒアリング（６月２日間）

【総合評価結果　69 点/100 点（適正であると認められる）／所見は以下のとおり】

・オンラインとリアルを上手に組み合わせて集客実績に結び付けられており、期待以上の成果である。今後はより幅広い層の市民が参加できるよう、さらに工夫を重ねていただきたい。
・自主事業で講師がスタッフの場合、参加費の徴収をしていないようだが、サービスの内容しだいでは特に無償でなくてもよい。
・市民交流と市民活動団体の活性化に工夫して取り組んでいることが高く評価できる。
・スタッフの意志が隅々まで行きわたっており素晴らしい。とても良い事業内容なので、たくさんの市民に知ってもらえる施設となっていくことを期待している。

４．地域・企業・関係団体との連携について

（１）センター運営委員会開催（５月・７月・10 月・１月）
（２）市内中学校 職場体験　２中学校（６月～12 月延べ６日間）
（３）近隣町内会主催 災害時要支援者交流会「防災講話」講師（６月）
（４）避難所特命者 現地確認訓練（６月）
（５）安城学園高等学校 インターンシップ（７月・３日間）
（６）名古屋短期大学　インターンシップ　（８月～９月、３日間）
（７）市内中学・高校へのボランティア活動機会の情報提供

５．人員体制・職員研修について

（１）副センター長　２名体制に整備
（２）スタッフ研修 経理についての勉強会（４月）
（３）愛知ネット研修 労働者協同組合法（６月）
（４）スタッフ研修「広報の流行を掴んで情報発信」（７月）
（５）火災避難訓練・シェイクアウト訓練　（９月）
（６）スタッフ全体研修　事業計画について（９月）
（７）施設周知のための SEO（検索エンジン最適化）対策研修（10 月）
（８）さすまた講習会受講(12 月)
（９）安城市災害ボランティアコーディネーター講座受講(12 月)
（10）甲種防火管理新規講習（12 月）
（11）Canva（Web 用チラシ作成ソフト）使い方講習受講(２月)
（12）愛知ネットスタッフ全体研修会（２月）
（13）碧南市マチスクへの参加（２月）

Ⅵ ま と め

１．今後の予定・課題

１．市民活動団体登録要件の見直し
２．市民活動登録団体が有料施設を利用する場合の、利用料 1/2 免除の要件の見直し
３．一般の方にも利用していただける施設だということの周知
４．情報発信媒体について WEB 活用重視による業務形態への変更（経費削減、作業時間削減）
５．SNS 活用者、活用団体への情報発信支援のあり方の見直し・SNS 活用方法の模索
６．高校生・大学生といった若者の社会活動拠点となるための事業やセンター活用方法の模索

■障害児通所支援事業

Support for children with disabilities

●児童発達支援事業所「愛知こどもネット あどびぃ」

概 要

場　　所：安城市三河安城本町１-１-１
　　にしきみパーキング１階７号室
営業時間：月～金曜日　10 時～18 時
　　土日祝 定休
受入人数：1 日 10 名（上限）
受入時間：1 人あたり最大 120 分

Ⅰ. 実施概要

愛知ネットに勤める保育士・小学校教員等の豊富な現場経験のある有資格者を中心とし、就学前 6 歳までの障がいのある子どもや、発達に遅れのある子どもを施設で受入れる。日常生活の自主訓練や機能訓練を実施し、安心して小学校生活が送れるよう支援する。

Ⅱ. 今年度の目標・計画

・多くの子どもに利用していただけるよう、１日に５～７名を受け入れる事を目標とし集客に努める。
・利用者に提供する訓練内容とその効果を検証し、愛知ネット独自の指導方法を確立する。

Ⅲ. 実施した事業内容・今後の予定

〈利用者について〉

令和４年６月から利用者の受け入れを開始し、徐々に利用者が増え、令和５年３月 31 日時点では 10 名の利用者が通所している。10 名のうち、週１回の利用者が５名、週２回の利用者が４名、週３回の利用者が１名であり、１週間の合計利用回数は 16 回となっている。利用時間帯は保育園・幼稚園が終わってからの 15 時以降の利用が多かったが、13 時など午後の早い時間のニーズも少しずつ出てきた。今後利用者を増やすにあたり、午前中の利用者の獲得が必要になる。現在は一人当たり 60 分程度の支援を提供しており、子どものみならず保護者とのコミュニケーションも積極的にとっている。今後も利用者数が目標値に達するように支援内容の充実や広報活動に取り組んでいく。

〈支援内容について〉

「ＬＩＴＡＬＩＣＯ」という児童発達支援事業所をサポートする団体の教材や当事業所が独自に開発した教材を活用し、利用者の支援を進めている。教材や支援方法の工夫については、日々職員で試行錯誤しながらすすめており、愛知ネット独自の支援内容や方法を整えていきたい。

おはしの使い方（療育）

マッチング（療育）

お店屋さん（療育）

粗大運動

■新型コロナウイルス感染症対応の記録

2022 年度は、2021 年度に出された所管課からの制限指示から徐々に緩和されていった。各センターでの対応は次のとおり。

施　設　名		センターでの対応
社会教育	愛知県美浜自然の家	・マスクの着用、手指の消毒、施設の消毒、定期的な換気の実施、飛沫防止パネルの設置 ・宿泊室、研修室などの収容人数への配慮（50%目安） ・食事の提供方法をバイキング方式に戻した。トング利用の際の手袋着用。 ・令和５年３月 13 日からマスクは個人判断での着用となった。
	愛知県旭高原自然の家	・マスクの着用、手指の消毒、施設の消毒、定期的な換気の実施、飛沫防止パネルの設置 ・宿泊室、研修室などの収容人数への配慮（50%目安） ・共有施設（食堂、浴場）の入替時間の設定 ・感染症対策食（バイキングメニューを弁当パックに詰めて提供） ・令和５年３月 13 日からマスクは個人判断での着用となった。
	愛知県野外教育センター	・マスクの着用、手指の消毒、施設の消毒、定期的な換気の実施、飛沫防止パネルの設置 ・学校の利用は単独利用ができるように配慮 ・一般団体においては、人数制限を解除 ・令和５年３月 13 日からマスクは個人判断での着用となった。
	豊橋市青少年センター	・マスクの着用、手指の消毒、施設の消毒、定期的な換気の実施、飛沫防止パネルの設置

貸出用消毒セット（旭高原自然の家）／食堂飛沫飛散防止パネル（野外教育センター）／玄関ホール（刈谷市民ボランティアセンター）

施　設　名		センターでの対応
市民活動センター	刈谷市民ボランティア活動センター	・マスクの着用、手指の消毒、施設の消毒、定期的な換気の実施、飛沫防止パネルの設置 ・人数制限 昨年同様に談話スペース利用 50%まで／作業室３名まで／湯沸かし室利用禁止 ・令和４年 10 月 1 日から館内での食事が可能 ・令和５年２月 21 日から談話スペース他の利用制限を解除 ・令和５年３月 13 日からマスクは個人判断での着用となった。
	大府市民活動センター（コラビア）	・マスクの着用、手指の消毒、施設の消毒、定期的な換気の実施、飛沫防止パネルの設置 ・交流スペース利用者の氏名、連絡先の記帳
	碧南市市民活動センター（サポプラ）	・マスクの着用、手指の消毒、施設の消毒、定期的な換気の実施、飛沫防止パネルの設置 ・令和 4 年 10 月 1 日以降、碧南市からの指導に基づき施設の利用制限を緩和 ・サポプラおしゃべりコーナーでの食事制限を黙食制限に緩和 ・施設定員を 50%から 100%とした。 ・利用者名簿の提出不用
	安城市民交流センター	・定員 50%推奨 ・飲食制限（調理室または午前午後・午後夜間をまたいだ利用に限り食事可） ・マスク着用呼びかけの緩和（令和５年１月 25 日～） ・館内飲食禁止の解除（令和５年２月１日～） ・マスク着用呼びかけ廃止（令和５年３月 13 日～）
児童発達支援事業所あどびぃ		・マスクの着用、手指の消毒、施設の消毒、定期的な換気の実施、飛沫防止パネルの設置 ・通所時の利用者の検温 ・令和５年３月 13 日以降はマスクを外して支援を行う。

■東愛知新聞令和 4 年 6 月 20 日（月）掲載【体験通し備えを学ぶ　豊橋市青少年センター】

（7）　社会　2022年（令和4年）6月20日（月曜日）　東愛知新聞

各地で防災講習会

避難所要員や地域住民など参加

体験通し備えを学ぶ

豊橋市青少年センター

感染症を考慮

段ボールベッドの説明をする吉田会長＝豊橋市青少年センターで

室内にテントを設けた体調不良者用の避難部屋

豊橋市の「市青少年センター」で19日、「防災体験講座－感染症を考慮して」があった。自然災害への備えや避難時の感染症への対策などを講話と体験で学んだ。

毎年テーマを設けて防災体験講座を開く。近年は台風シーズン前のこの時期に企画、近くの柳生川の水害を警戒するとともに、昨年に続いて新型コロナウイルス感染防止にも配慮しながらの内容になった。校区在住民や避難所要員、市内の自治会関係者や防災担当、勉強で訪れた県立豊橋工科高校生ら約 40 人が参加した。

市防災危機管理課から「豪雨、洪水に備えて」、センターの指定管理者で災害救援活動に実績のある「愛知ネット」スタッフから「感染症に配慮した避難所運営」の講話を聞いたあと、実際に避難所運営を体験した。

参加者は「受付」「健常者」「体調不良者」に分かれ、受け付けやチェックリストの記入、健常者と体調不良者の別部屋への案内などに取り組んだ。福岡校区自治会長の海上明宏さんは「感染症対策が知りたくて参加した。研修内容を自治会の会合で伝えたい」と話した。また受け付けを体験したセンター利用者の稲垣清美さんは「健康状態のチェック項目を受け付けて精査する必要があると痛感した」などと感想を述べた。

2 月 25 日付本紙掲載の吉田商会による段ボールベッドの記事を読んだ川合基弘センター長が吉田廣喜会長に協力を依頼。吉田会長自ら段ボールベッドを持参し、参加者に解説した。

■読売新聞　令和 4 年 6 月 21 日（火）掲載

段ボールベッド体験

豊橋 防災講座40人が受講

受講者に段ボールベッドの説明をする吉田さん（左）

豊橋市青少年センターは19日、災害への備えなどを市民が学ぶ防災講座を同センターで開いた。会場では、大小の段ボール箱を組み合わせて作ったベッドも披露された。

講座は年1回開かれており、市民ら40人が受講した。段ボールベッドは、豊橋市で自動車解体・部品販売業を営む吉田広喜さん(74)が、社会貢献活動として作ったもので、この日は2セットが持ち込まれ、受講者が寝心地を試したり、吉田さんから作り方を聞いたりしていた。

高校の課題研究で防災について調べているという冨田晴生さん(17)は「思ったより丈夫でした。でも、段ボール箱の枕は角があって、ちょっと痛かった」と語った。吉田さんは「こういう意見を、今後のベッド作りに反映させ、よりよいものを提供できるようにしたい」と話していた。

講座では、ほかに豊橋市役所の防災担当者が過去の大雨災害の事例を紹介しながら、日頃の備えの大切さを呼びかけるなどした。

読売新聞 2022 6月21日(火)

【段ボールベッド体験】豊橋　防災講座 40 人が受講

豊橋市青少年センターは 19 日、災害への備えなどを市民が学ぶ防災講座を同センターで開いた。会場では、大小の段ボール箱を組み合わせて作ったベッドも披露された。

講座は年 1 回開かれており、市民ら 40 人が受講した。段ボールベッドは、豊橋市で自動車解体・部品販売業を営む吉田広喜さん（74）が、社会貢献活動として作ったもので、この日は 2 セットが持ち込まれ、受講者が寝心地を試したり、吉田さんから作り方を聞いたりしていた。

高校の課題研究で防災について調べているという冨田晴生さん(17)は「思ったより丈夫でした。でも、段ボール箱の枕は角があって、ちょっと痛かった」と語った。　講座では、ほかに豊橋市役所の防災担当者が過去の大雨災害の事例を紹介しながら、日ごろの備えの大切さを呼びかけるなどした。（新聞記事より抜粋）

■Pitch FM 『防災 INFORMATION』出演

愛知県の西三河地方を主な放送エリアとするコミュニティＦＭラジオ局「Pitch FM」の『防災 INFORMATION』に主任の内藤が出演しました。

放送日時	：	2022 年 9 月 1 日（木）、7 日（水）	13：25 頃～
		9 月 5 日（月）、6 日（火）	9：15 頃～
		10 月 31 日（月）、11 月 1 日（火）	13：25 頃～
		11 月 1 日（火）	13：25 頃～
		11 月 30 日（水）、12 月 1 日（木）	9：15 頃～
周 波 数	：	ＦM83.8MＨｚ	

■令和 4 年 11 月 1 日 『中日新聞（西三河版）』朝刊　掲載

当団体の長年にわたる復興支援活動に対し岩手県大船渡市より感謝状が贈呈されたことについて、2022 年 10 月 31 日に理事長の天野が安城市役所に訪問し神谷学市長に活動の報告をしました。

同様に感謝状を受け取った学校法人安城学園（寺部理事長）とともに、11 月 1 日の中日新聞（西三河版）朝刊に掲載されました。

新聞　（第3種郵便物認可）

震災復興支援 息長く

安城学園、愛知ネット 大船渡市が感謝状

学校法人安城学園とＮＰＯ法人「愛知ネット」（いずれも安城市）が、2011年の東日本大震災で被災した岩手県大船渡市から、長年にわたり復興支援に貢献したとして、感謝状を受け取った。関係者が31日、市役所を訪れ、神谷学市長に活動などを報告した。（竹内なぎ）

安城学園では同年八月から、安城学園高校など設置校の生徒、学生らが定期的に現地を訪問。両市で盛んな七夕まつりへの参加や仮設住宅でのボランティア、合唱部や弦楽部によるコンサートなどを続けてきた。

寺部暁理事長は「県内でも起こり得る地震や台風災害などに備え、被災地から学んで生きる力を養う教育を展開したい」と語った。

愛知ネットは、震災発生直後からスタッフを大船渡市や岩手県陸前高田市に派遣し、災害情報受発信の環境整備や臨床心理士による被災者の心のケア、愛知県からのボランティアのコーディネートなどを担ってきた。天野竹行理事長は「被災者の思いを愛知の人に伝える活動を続けていきたい」と語った。

感謝状は十月十三日に大船渡市で開かれた市制施行七十周年記念式典で、全国各地の団体などに贈られた。

大船渡市から感謝状を受け取った寺部理事長㊨と天野理事長㊧＝安城市役所で

■大船渡市長感謝状 拝受

2022 年 10 月 13 日（木）に、大船渡市市制施行 70 周年記念式典が挙行され、式典に伴い、東日本大震災での被災地支援活動に対して感謝状を贈呈していただくこととなりました。

感謝状は、大船渡市の復旧・復興支援に携われた企業・団体・個人に贈られましたが、愛知ネットが代表５団体に選出され、壇上にて理事長の天野が大船渡市長から感謝状を拝受しました。

震災から 11 年が経過し、団体内でも新しい職員が増えています。当時の様子を知らない職員も大船渡市の皆さんとお話をする中で交流を深めることができました。

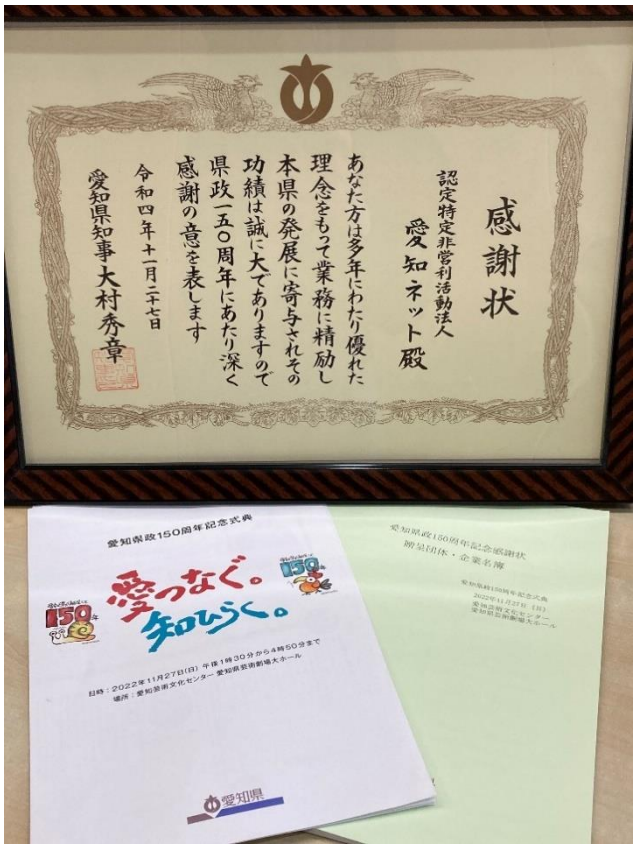
今後もこのつながりを継続できるよう、愛知と岩手をつなぐ活動を展開していきます。

これまで活動させていただいた事に感謝するとともに、これからも気仙の皆さんを愛知から応援します。

■「愛知県政 150 周年記念感謝状贈呈団体」に選定

愛知県政 150 周年にあたり、多年《公共安全》の確保に貢献した団体として当団体が選定され、感謝状を拝受しました。

災害が起きた時、頼れるのは顔が見える距離の「つながり」であり、愛知ネットはこれからも愛知県に根差した団体として、災害被災地支援の経験と学びを活かし、平時から防災・災害時教育の提供や顔が見えるコミュニティづくりに取り組んでいきます。



特定非営利活動法人　愛知ネットのあゆみ

１９９９年
4月　NPO愛知ネット設立

２０００年
1月　特定非営利活動法人として、愛知県より認証を受ける
4月　北海道有珠山にて災害救援活動、ｲﾝﾀｰﾈｯﾄでの情報発信
9月　東海豪雨災害で災害救援活動、ｲﾝﾀｰﾈｯﾄでの情報発信

２００１年
4月　安城市・知立市・刈谷市IT講習会
（一般・障がい・外国人対応開始）
6月　安城市・愛知県総合防災訓練　参加（矢作川河川敷）
9月　愛知県・新城市総合防災訓練　参加

２００２年
2月　静岡県災害ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ立ち上げ訓練　参加
4月　市民防災ﾌｫｰﾗﾑ2002開催（碧海５市対象）
日本財団助成事業
「外国人のための情報支援ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」開始
5月　第１回　親子ふれあいﾈｯﾄﾜｰｸ　ｷｬﾝﾌﾟ開催
6月　愛知県・一宮市総合防災訓練参加
7月　大垣荒崎地区水害災害救援活動、ｲﾝﾀｰﾈｯﾄでの情報発信実施
9月　蒲郡市・愛知県・名古屋市総合防災訓練　参加
11月　安城市東栄町今本町防災訓練
北部小学校避難所体験　開催

２００３年
3月　あんじょう国際交流祭　「Anjo International Festival」開催
4月　市民防災ﾌｫｰﾗﾑ2003開催
日本財団助成事業外国籍住民防災講座 開始
7月　九州豪雨・宮城県北部地震に伴う情報発信実施
8月　愛知県多文化共生ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ「医療通訳ｽﾀｯﾌ要請講座」開始
愛知県・刈谷市総合防災訓練・名古屋市総合防災訓練参加
9月　十勝沖地震に伴う情報発信実施
10月　刈谷市民ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動支援ｾﾝﾀｰ　運営業務委託

２００４年
1月　「安否確認システム」を発表
4月　「いっつもトーク」を発表
6月　経済産業省 市民活動活性化モデル事業
「災害に強い多文化共生ｺﾐｭﾆﾃｨ《安心・安全・安城》ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」開始
7月　新潟豪雨災害（新潟県三条市・中之島町・見附市）救援活動
8月　「安城地域ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ」運営開始
愛知県・豊橋市総合防災訓練 参加（豊橋市三河港）
9月　香川県高松市高潮災害救援活動
11月　あいち中越支援ﾈｯﾄﾜｰｸを組織、中越地震関連支援を開始

２００５年
1月　安城市「安城市民活動ｾﾝﾀｰ」運営業務委託
3月　経済産業省市民活動活性化ﾓﾃﾞﾙ事業支援、
電話通訳ｾﾝﾀｰ構築
4月　「愛・地球博」警備部署外国人通訳ｾﾝﾀｰ運営業務開始
8月　安城市・愛知県総合防災訓練（安城市内５箇所）参加
9月　内閣府「防災功労者防災担当大臣表彰」受賞
11月　内閣府「地域情報ｼｽﾃﾑによる安全、安心ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」開始
防災科研「災害情報ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ養成に関する調査事業」
12月　行政通訳養成講座 開講

２００６年
4月　刈谷市いっつもﾄｰｸ（行政通訳）ｻｰﾋﾞｽ開始
7月　経済産業省「若者と中小企業のﾈｯﾄﾜｰｸ構築」事業開始
8月　愛知県「あいち防災ｶﾚｯｼﾞ地域講座」
12月　安城市自主防災支援事業

２００７年
3月　愛知県自主防災組織ﾘｰﾀﾞｰ研修
4月　愛知県青年の家　運営業務委託
安城市安全安心ﾒｰﾙ配信
6月　経済産業省
「平成19年度若者と中小企業とのﾈｯﾄﾜｰｸ構築事業」
株式会社ﾃﾞﾝｿｰ　「できるｴｺDECOｽｸｰﾙ」企画・運営
7月　愛知県河川情報伝達実証実験
9月　株式会社ﾃﾞﾝｿｰ「ﾘｭｰｽﾊﾟｿｺﾝ寄贈ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ団体交流会」

２００８年
2月　愛知県知事認定
「平成19年度ｺﾐｭﾆﾃｨﾋﾞｼﾞﾈｽ優良ﾓﾃﾞﾙ事業者」
3月　愛知県自主防災組織ﾘｰﾀﾞｰ研修　開催
6月　経済産業省
「平成20年度若者と中小企業のﾈｯﾄﾜｰｸ構築事業」
岩手・宮城内陸地震救援活動
8月　岡崎市８月末豪雨災害救援活動
9月　独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)
「平成20年度災害NPOとのWINDS実験業務」
独立行政法人防災科学技術研究所「島田市・安城市における災害ﾘｽｸｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝに関する実証実験」支援業務
11月　厚労省
「地域連携型障害者災害救援ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝの策定に関する調査研究」
愛・地球博ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ
「災害ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ体験におけるﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ運営」業務

２００９年
2月　安城市職員NPO研修
3月　三重県みえ防災ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ研修
4月　大府市民活動ｾﾝﾀｰ・豊橋市民ｾﾝﾀｰ市民活動ﾌﾟﾗｻﾞ運営業務委託
5月　独立行政法人宇宙航空研究開発機構
「平成21年度災害NPOとのWINDS実験業務」委託
8月　独立行政法人防災科学技術研究所
「愛知県における自主防災活動高度化ﾓﾃﾞﾙ事業」支援業務
8月　トヨタ自動車「災害ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ体験イベント研修」協力
9月　「愛フェス２００９」開催（－２０１８）

特定非営利活動法人　愛知ネットのあゆみ

２０１０年
3月　独立行政法人宇宙航空開発機構
「平成22年度災害NPOとのWINDS実験業務」
大府市緊急雇用事業受託
5月　豊田市災害ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ養成講座
7月　防災・緊急情報ｼｽﾃﾑ開発事業
10月　愛知県における実証実験支援業務

２０１１年
3月　東日本大震災 救援活動開始
大府市緊急雇用事業開始
4月　豊橋市青少年センター運営業務委託
6月　愛知県より委託「愛知県被災者支援センター」運営開始

２０１２年
4月　東日本大震災 救援活動継続
碧南市ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｻﾎﾟｰﾄﾌﾟﾗｻﾞ　運営業務委託
大府市「防災ｺﾐｭﾆﾃｨ支援事業」緊急雇用事業
愛知県被災者支援センター　業務継続
7月　JAXA
「平成24年度災害NPOとのWINDS災害通信実験業務」
11月　団体名称「特定非営利活動法人愛知ネット」と変更

２０１３年
通年　愛知県内外避難所運営・防災リーダー研修開催
2月　東日本復興フォーラム開催
3月　とよた防災フェスタ
4月　東日本大震災 救援活動継続
愛知県被災者支援センター　業務継続
7月　JAXA
「平成25年度災害NPOとのWINDS災害通信実験業務」
11月　岩手県盛町盛青年商工会会長表彰受賞
岩手県住田町表彰受賞

２０１４年
3月　とよた防災フェスタ
4月　東日本大震災救援活動継続
愛知県被災者支援センター業務継続
6月　愛知ネット設立１５周年記念事業
「フレンドシップ防災デー」開催
JAXA
「平成26年度災害NPOとのWINDS災害通信実験」
業務実施

２０１５年
4月　東日本大震災救援活動継続
愛知県被災者支援センター業務継続
愛知県美浜少年自然の家運営業務委託
5月　とよた防災フェスタ　実施
西尾市　西尾中学校区における防災事業　開始
刈谷市　刈谷市桜区・重原区合同避難所開設訓練開始
6月　碧南市「まちづくりの担い手育成講座」実施
知立市　自主防災会活動サポート委託業務
10月「企業における防災事業」アイシン精機株式会社
愛知県　平成27年度広域ボランティア支援本部訓練
12月　稲沢市　いなざわ地域防災リーダー養成講座
豊橋市　避難所運営ゲーム「HUG」実施

２０１６年
通年　西尾市小学校避難所運営マニュアル作成
4月　東日本大震災復興支援活動継続
愛知県被災者支援センター業務継続
熊本地震救援活動開始
7月　豊田市自主防災リーダー養成講座
知立市自主防災サポート委託業務
豊橋市市民大学トラム
10月　稲沢市地域防災リーダー養成講座業務委託
11月　平成28年度刈谷市総合防災訓練第2会場委託運営
12月　認定特定非営利活動法人として認定を受ける

２０１７年
4月　東日本大震災復興支援活動継続
愛知県被災者支援センター業務継続
5月　知立市自主防災活動サポート委託業務
子どもゆめ基金助成金交付事業
「スポーツ鬼ごっこ体験会」
6月　刈谷市防災リーダー養成講座
7月　九州北部豪雨災害救援活動開始
豊田市防災リーダー養成講座
8月　JT　NPO助成事業
「愛知県美浜町の未利用地を活用した農業体験交流事業」
10月　とよた防災フェスタ　中日サバイバルキャンプ参加

２０１８年
通年　東日本大震災復興支援活動継続
1月　とよた消防フェスタ参加
4月　安城市民活動センター運営業務委託開始
愛知県被災者支援センター業務継続
7月　西日本豪雨災害救援活動開始
9月　子どもゆめ基金助成金交付事業
「防災チャレンジキャンプ」
10月　「愛フェス２０１８」グランドフィナーレ
11月　とよた消防フェスタ参加
美浜町小野浦区地域連携型防災訓練実施

２０１９年
3月　「災害時における愛知県美浜少年自然の家の利用等に関する協定書」締結に向けた協議開始
あんぴメール、安心・安全メールシステムサービス終了
4月　「災害時における愛知県美浜少年自然の家の利用等に関する協定書」締結
10月　台風19号被災地支援

２０２０年
7月　令和2年7月豪雨被災地支援

２０２１年
4月　愛知県旭高原自然の家指定管理業務開始
愛知県野外教育センター指定管理業務開始

特定非営利活動法人　愛知ネットのあゆみ

２０２２年
　３月　児童発達支援事業所「あどびぃ」開業
　10 月　大船渡市長感謝状 拝受
　11 月　愛知県政 150 周年記念感謝状 拝受

２０２３年
　2 月　事務所移転